

茨城県
こども計画（仮称）策定のための基礎調査

結果報告書

令和6年3月

目次

§ 1 調査概要	1
1-1. 調査の目的	1
1-2. 調査の実施方法	1
(1) 調査対象	1
(2) 調査方法	1
(3) 調査項目	2
(4) 調査期間	2
1-3. 調査票の回収状況	3
1-4. 本報告書について	4
§ 2 調査結果（アンケート集計・分析）	5
2-1. 子どものすがた	5
(1) 家族・家庭環境について	5
(2) 勉強・学校について	7
(3) 悩み・相談相手について	8
(4) インターネット環境について	10
(5) 結婚・家族観について	11
2-2. 若者のすがた	12
(1) サンプルについて	12
(2) 結婚・家族観について	14
(3) 悩みや心配ごとについて	16
2-3. 保護者のすがた	17
(1) サンプルについて	17
(2) 就労状況について	19
(3) 家計の状況について	21
(4) 教育について	22
(5) 子ども・子育てについて	23
2-4. 子ども・子育てに関わる施策について	27
§ 3 調査結果（クロス集計・分析）	32
3-1. 世帯区分	32
(1) 世帯区分の検討	32
(2) 世帯区分による調査票4（保護者）の分析	34
3-2. 紐づけ調査	39
(1) 紐づけ調査の方法	39
(2) 紐づけ対象保護者回答状況	39

(3)	紐づけ対象者の有効回答数について.....	39
(4)	保護者の世帯区分を属性とした子どもと子育ての現況.....	40
3-3	その他のクロス集計・分析.....	48
(1)	保護者の働き方と世帯状況について.....	48
(2)	教育費と世帯状況について.....	51
(3)	多胎児等世帯の状況について.....	53
§ 4	総括.....	55
資料編	56
調査票単純集計.....	56

§ 1 調査概要

1-1. 調査の目的

こども基本法（令和5年4月1日施行）第11条において、こども施策へのこどもや子育て当事者等の意見の反映が求められていることから、来年度に予定している茨城県こども計画（仮称）の策定を見据え、こどもや子育て当事者等の意識や生活実態、支援ニーズ等を把握するための基礎調査を実施した。

1-2. 調査の実施方法

(1) 調査対象

調査区分	調査対象者	調査依頼先	調査方法	対象者数
未就学児	保護者	幼稚園・保育所・子育て支援センター等	WEB	22,000人程度
小学1年生	保護者	17校	児童・生徒：紙 保護者：WEB	
小学5年生	児童・保護者			
中学2年生	生徒・保護者	13校		
高校2年生	生徒・保護者	8校	WEB	
若者	大学生ほか	大学・専門学校等	WEB	

県内の未就学児の保護者、小・中・高校生とその保護者、若者など

(2) 調査方法

- ・ 調査区分ごとに設問数30問程度の無記名アンケート方式とする。
- ・ 調査票は以下のとおり。

- 調査票1：小学5年生、中学2年生／30問／紙アンケート
- 調査票2：高校2年生／32問／WEBアンケート
- 調査票3：若者／37問／WEBアンケート
- 調査票4：保護者／38問／WEBアンケート

- ・ 調査項目は、こども大綱や現行の次世代育成プランの内容に沿ったものとする。
- ・ 調査票は、紙媒体とインターネット（QRコードの配布）を併用する。
- ・ 小学5年生、中学2年生、高校2年生とその保護者向け調査については、調査票のナンバリングにより親子の紐づけを行う。（選定校の児童・生徒と保護者のみ）

- ・ 「調査票4」の対象については、小学2年生、小学5年生、中学2年生、及び高校2年生の子どもを通じて調査案内を配布した保護者と、幼稚園・保育所・子育て支援センター等の施設を通じて調査案内を配布した18歳未満の子を持つ保護者となっている。
- ・ 「調査票4」の子どもについての設問は、小学2年生、小学5年生、中学2年生、及び高校2年生の保護者は、調査案内の配布を受けた子どもを対象として回答している。幼稚園・保育所・子育て支援センター等の施設を通じて調査案内を配布した保護者は、複数の子がいる場合は末子を対象として回答している。

(3) 調査項目

- ・ 就労状況について（保護者向け）
- ・ 世帯状況（同居者の数）について（全調査対象者）
- ・ 自分のこどもについて（保護者向け）
- ・ 自分の子育てについて（保護者向け）
- ・ 学校や勉強のことについて（小学生・中学生・高校生向け）
- ・ 将来の進路について（小学生・中学生・高校生向け）
- ・ 普段の生活について（小学生・中学生・高校生向け）
- ・ 一緒に住んでいる家族の日頃の様子について（高校生・若者向け）
- ・ インターネットへの接続状況について（小学生・中学生・高校生向け）
- ・ 結婚観など、将来や生き方について（高校生・若者向け）
- ・ 子育てについての認知度（高校生）
- ・ 国や県への要望（全調査対象者）
- ・ 子育てサービスや子育て支援センター等の利用経験（保護者向け）

(4) 調査期間

- ・ 紙調査票 令和6年1月24日（水）～令和6年2月7日（水）
- ・ WEB調査票 令和6年1月24日（水）～令和6年2月16日（金）

1-3. 調査票の回収状況

アンケートの回答状況は以下の通り。

■回答者カテゴリー別回収状況

回答者属性	想定対象数	回答数	回収率	(調査票配布数 / 回収率)
小学5年生	2,000	1,921	96.1%	(2,076 / 92.5%)
中学2年生	2,000	1,843	92.2%	(2,112 / 87.3%)
高校2年生	2,000	1,008	50.4%	(2,108 / 47.8%)
若者	2,000	727	36.4%	-
保護者【全体】	14,000	7,427	53.1%	-
(うち紐付け対象の保護者)	(6,000)	(2,270)	(37.8%)	(6,296 / 36.1%)
合計	22,000	12,926	58.8%	-

想定調査対象数22,000に対する最終的な回答数の割合は、約59%となっている。このうち、特定の調査対象に配布したサンプル回収率は、小学5年生で約96%、中学2年生で約92%、高校2年生で約50%、紐づけ対象の保護者で約38%となっている。

■回答者カテゴリー別男女比

	男性	女性	どちらともいえない	未回答	答えたくない	総計
小5・中2	1,966	1,701	21	16	60	3,764
高2	460	525	8		15	1,008
若者	189	520	9		9	727
保護者(一般)	546	4,545	5		61	5,157
保護者(紐づけ対象の保護者)	202	2,018	1		49	2,270

回答者の男女比は、小学5年生、中学2年生、高校2年生では、概ね同程度の男女比となっているが、若者は女性が約7割、保護者は女性が約9割の回答となっている。

1-4. 本報告書について

調査結果の報告については、「§ 2. 調査結果（アンケート集計・分析）」にて、設問のテーマごとにまとめ、調査対象の概要や各調査票における共通の設問の比較など、設問に沿った集計、および性別や年齢などの基本的属性によるクロス集計・分析を行う。

「§ 3. 調査結果（クロス集計・分析）」では、主に世帯区分、紐づけ調査に基づいたクロス集計・分析を行う。

「§ 資料編」では、4つの調査票の単純集計の結果と、さまざまなクロス集計により、さまざまな観点からの分析で、調査の全容を示す。

また、本報告書内では、簡潔に整理するため、各調査票の設問を次のように表記する。

- 調査票 1（小・中学生向け）の設問 1 ⇒ s Q 1
- 調査票 2（高校生向け）の設問 1 ⇒ k Q 1
- 調査票 3（若者向け）の設問 1 ⇒ w Q 1
- 調査票 4（保護者向け）の設問 1 ⇒ h Q 1

§ 2 調査結果（アンケート集計・分析）

4つの調査票により、アンケート調査を行った。各調査票の設問に応じた集計結果は、資料編に全数を示す。ここでは、調査対象の属性や調査内容に応じた視点により、それらから抜粋し、分析した結果を示す。

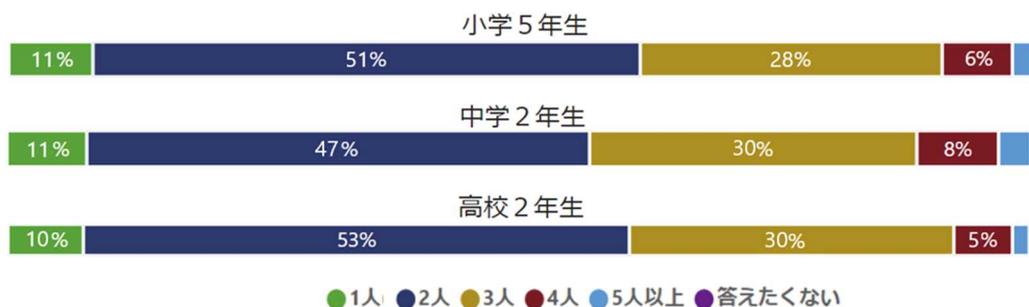
2-1. 子どものすがた

アンケート調査の対象となった、小学校5年生、中学校2年生、高校2年生についての調査結果より、子どもと子育てに係わる現況について報告する。

(1) 家族・家庭環境について

◎兄弟姉妹の数（sQ4、kQ2）

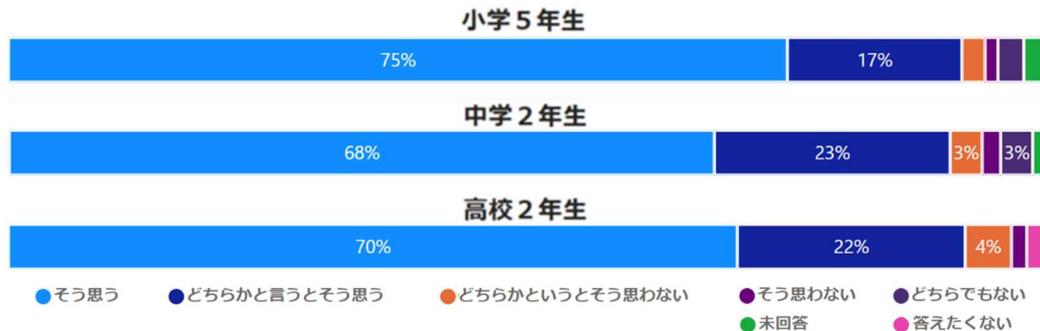
概ね、一人は10%前後、2人は50%前後、3人は30%前後となっている。



	小学5年生		中学2年生		高校2年生	
1人	218	(11.3%)	204	(11.1%)	102	10.1%
2人	977	(50.9%)	870	(47.2%)	529	52.5%
3人	533	(27.7%)	556	(30.2%)	299	29.7%
4人	119	(6.2%)	139	(7.5%)	49	4.9%
5人以上	38	(2.0%)	56	(3.0%)	16	1.6%
答えたくない（未回答）	36	(1.9%)	18	(1.0%)	13	1.3%
総計	1921	(100.0%)	1843	(100.0%)	1008	100.0%

◎「自分の家は居心地がいいと感じますか」(s Q 19、k Q 17)

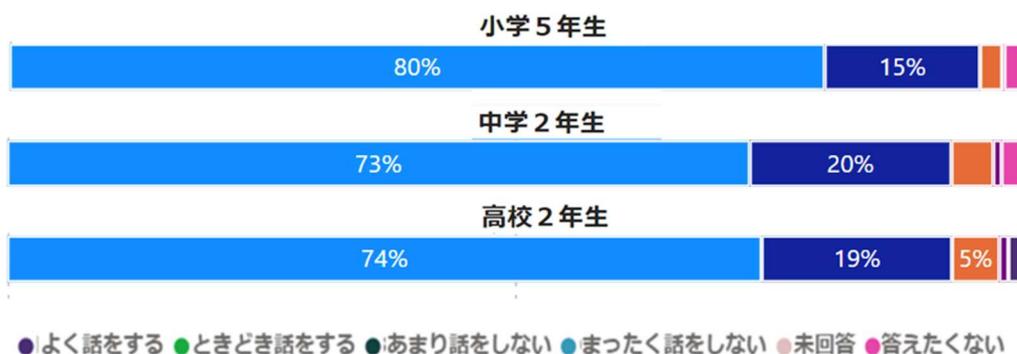
何れも、「そう思う」「どちらかと言うとそう思う」が概ね90%、「そう思わない」「どちらかと言うとそう思わない」が3%から6%程度である。



	小学5年生		中学2年生		高校2年生	
そう思う	1446	(75.3%)	1256	(68.1%)	710	(70.4%)
どちらかと言うとそう思う	324	(16.9%)	420	(22.8%)	222	(22.0%)
どちらかと言うとそう思わない	43	(2.2%)	57	(3.1%)	45	(4.5%)
そう思わない	24	(1.2%)	33	(1.8%)	15	(1.5%)
どちらでもない	48	(2.5%)	57	(3.1%)	0	(0.0%)
未回答	36	(1.9%)	20	(1.1%)	0	(0.0%)
答えたくない	0	(0.0%)	0	(0.0%)	16	(1.6%)
合計	1921	(100.0%)	1843	(100.0%)	1008	(100.0%)

◎「家族とどれくらい話をしますか」(s Q 23、k Q 20)

小学生は、「よく話をする」「ときどき話をする」で95%、中学生・高校生は93%となっている。

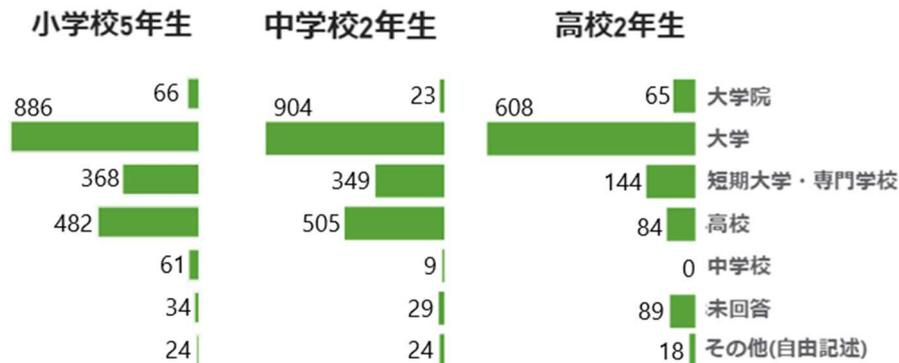


	小学5年生		中学2年生		高校2年生	
よく話をする	1542	(80.3%)	1348	(73.1%)	749	(74.3%)
ときどき話をする	294	(15.3%)	366	(19.9%)	189	(18.8%)
あまり話をしない	42	(2.2%)	76	(4.1%)	47	(4.7%)
まったく話をしない	4	(0.2%)	15	(0.8%)	9	(0.9%)
未回答	39	(2.0%)	38	(2.1%)	14	(1.4%)
合計	1921	(100.0%)	1843	(100.0%)	1008	(100.0%)

(2) 勉強・学校について

◎将来希望する最終学歴（s Q 10、k Q 4）

年齢が高くなるに伴い、専門学校・大学・大学院への進学希望者の割合が増えている。



	小学5年生		中学2年生		高校2年生	
大学院	66	(3.4%)	23	(1.2%)	65	(6.4%)
大学	886	(46.1%)	904	(49.1%)	608	(60.3%)
短期大学・専門学校	368	(19.2%)	349	(18.9%)	144	(14.3%)
高校	482	(25.1%)	505	(27.4%)	84	(8.3%)
中学校	61	(3.2%)	9	(0.5%)	0	(0.0%)
未回答・わからない	34	(1.8%)	29	(1.6%)	89	(8.8%)
その他(自由記述)	24	(1.2%)	24	(1.3%)	18	(1.8%)
合計	1921	(100.0%)	1843	(100.0%)	1008	(100.0%)

◎学校の授業がわかりますか（s Q 7、k Q 5）

年齢が高くなるに伴い「ほとんどわかる」は大幅に減少し、「半分くらいわかる」の割合が増加している。

小学5年生



中学2年生



高校2年生



- ほとんどわかる ● だいたいわかる ● 半分くらいわかる ● わからないことが多い
- ほとんどわからない ● 答えたくない

	小学5年生		中学2年生		高校2年生	
ほとんどわかる	694	(36.1%)	260	(14.1%)	82	(8.1%)
だいたいわかる	819	(42.6%)	787	(42.7%)	472	(46.8%)
半分くらいわかる	260	(13.5%)	492	(26.7%)	318	(31.5%)
わからないことが多い	115	(6.0%)	235	(12.8%)	115	(11.4%)
ほとんどわからない	16	(0.8%)	53	(2.9%)	9	(0.9%)
未回答	17	(0.9%)	16	(0.9%)	12	(1.2%)
合計	1921	(100.0%)	1843	(100.0%)	1008	(100.0%)

(3) 悩み・相談相手について

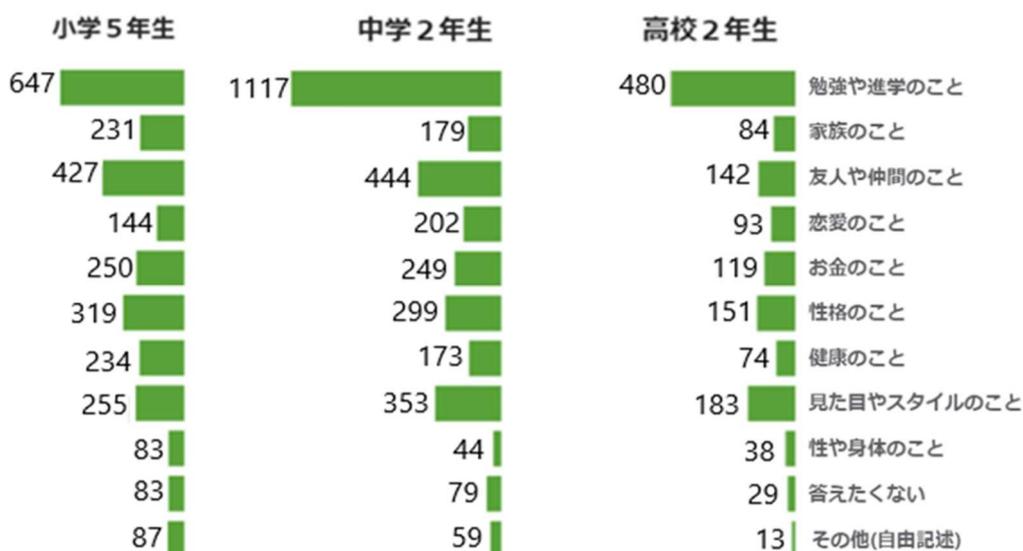
◎「悩みや心配事がありますか」(sQ20、kQ18)

中学2年生は、小学5年生・高校2年生と比べて、「悩みや心配ごとがある」の割合が多くなっている。

	小学5年生		中学2年生		高校2年生	
悩みや心配ごとはない	769	(40.0%)	478	(25.9%)	463	(45.9%)
悩みや心配ごとがある	1152	(60.0%)	1365	(74.1%)	545	(54.1%)
合計	1921	(100.0%)	1843	(100.0%)	1008	(100.0%)

○悩みや心配ごとの項目(あると回答した者が選択肢より複数回答)

中学2年生と高校2年生は、小学5年生と比べて、「勉強や進学」についての「悩みや心配ごと」の割合が多くなっている。



	小学5年生	中学2年生	高校2年生
勉強や進学のこと	647	1117	480
家族のこと	231	179	84
友人や仲間のこと	427	444	142
恋愛のこと	144	202	93
お金のこと	250	249	119
性格のこと	319	299	151
健康のこと	234	173	74
見た目やスタイルのこと	255	353	183
性や身体のこと	83	44	38
未回答	83	79	29
その他(自由記述)	87	59	13
合計	2760	3198	1406

◎相談相手（s Q 2 1・2 2、k Q 1 9）

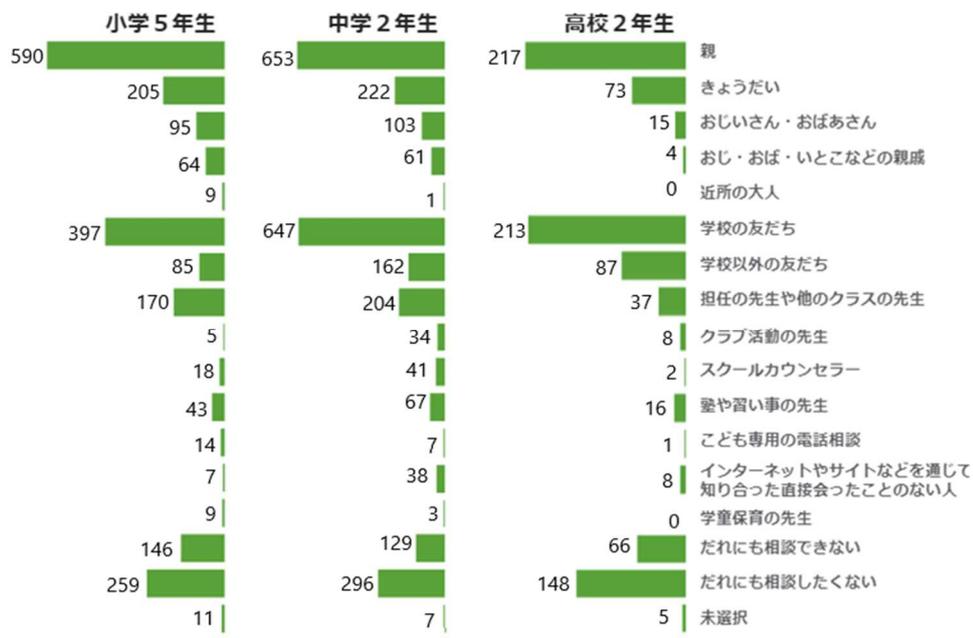
○「困ったときや悩んでいるとき、誰かに相談しますか」

各学年で、ほぼ同じ割合となっている。

	小学5年生	中学2年生	高校2年生
相談する	1516 (78.9%)	1418 (76.9%)	794 (78.8%)
だれにも相談できない	146 (7.6%)	129 (7.0%)	66 (6.5%)
だれにも相談したくない	259 (13.5%)	296 (16.1%)	148 (14.7%)
合計	1921 (100.0%)	1843 (100.0%)	1008 (100.0%)

○「誰に相談しますか」（選択肢より複数回答）

相談すると回答した人のうち、各学年で「親」が一番多く、続いて「学校の友だち」となっている。



	小学5年生	中学2年生	高校2年生
親	590	653	217
きょうだい	205	222	73
おじいさん・おばあさん	95	103	15
おじ・おば・いとこなどの親戚	64	61	4
近所の大人	9	1	
学校の友だち	397	647	213
学校以外の友だち	85	162	87
担任の先生や他のクラスの先生	170	204	37
クラブ活動の先生	5	34	8
スクールカウンセラー	18	41	2
塾や習い事の先生	43	67	16
こども専用の電話相談	14	7	1
インターネットやサイトなどを通じて知り合った直接会ったことのない人	7	38	8
学童保育の先生	9	3	
だれにも相談できない	146	129	66
だれにも相談したくない	259	296	148
未選択	11	7	5
その他(自由記述)	14	11	5
合計	2141	2686	905

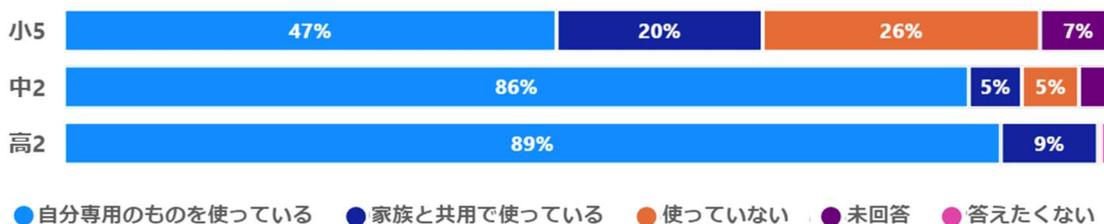
(4) インターネット環境について

◎スマートフォン等の利用状況について（s Q 2 6、k Q 2 3）

「インターネットに接続できる機器のうち、何を使っていますか。また、使っている機器は、フィルタリングの設定がされていますか」

【スマートフォンや携帯電話の所持・利用状況】

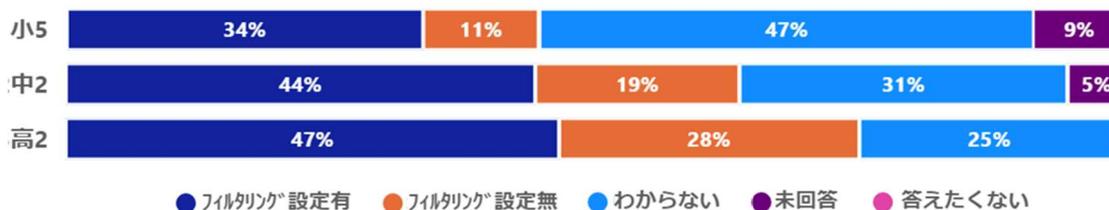
「自分専用のものを持っている」と答えた人は小学5年生で47%、中学2年生86%、高校2年生で89%となっている。



	小学5年生		中学2年生		高校2年生	
自分専用のものを使っている	899	(46.8%)	1580	(85.7%)	897	(89.0%)
家族と共用で使っている	376	(19.6%)	93	(5.0%)	93	(9.2%)
使っていない	506	(26.3%)	99	(5.4%)	3	(0.3%)
未回答・答えたくない	140	(7.3%)	71	(3.9%)	15	(1.5%)
総計	1921	(100.0%)	1843	(100.0%)	1008	(100.0%)

【スマートフォンや携帯電話のフィルタリング状況】

スマートフォンや携帯電話を「自分専用」または「家族と共用」で「使っている」と回答をした人のうち、半数以上がフィルタリング設定「有」と答えている。

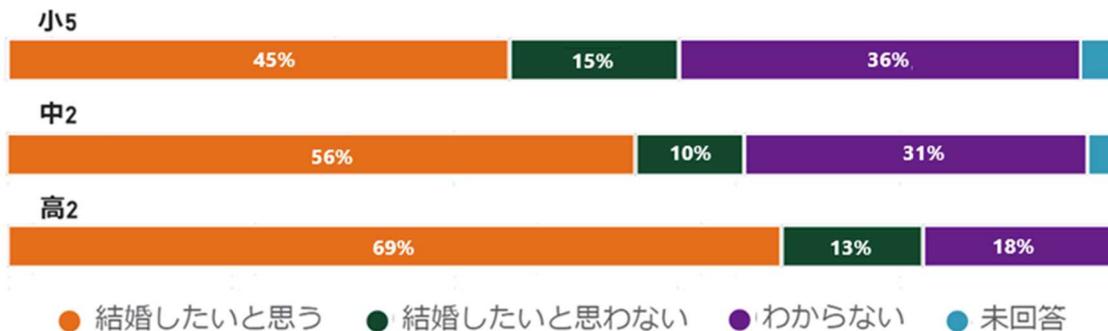


	小学5年生		中学2年生		高校2年生	
フィルタリング設定 有	429	(33.6%)	749	(44.8%)	461	(46.6%)
フィルタリング設定 無	139	(10.9%)	335	(20.0%)	280	(28.3%)
わからない	595	(46.7%)	559	(33.4%)	243	(24.5%)
未回答	112	(8.8%)	30	(1.8%)	6	(0.6%)
総計	1275	(100.0%)	1673	(100.0%)	990	(100.0%)

(5) 結婚・家族観について

◎将来、結婚したいか (s Q 27、k Q 24)

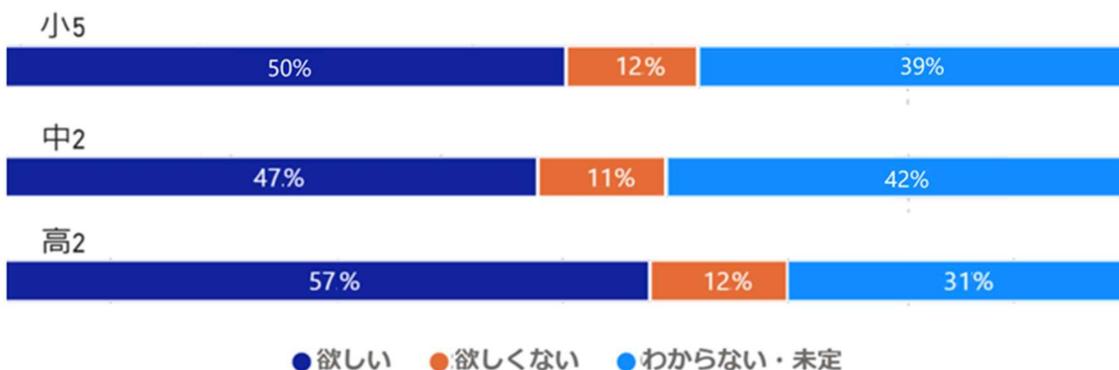
年齢が高くなるに伴い「結婚したいと思う」の割合が増えている。



	小学5年生		中学2年生		高校2年生	
結婚したいと思う	865	(45.0%)	1040	(56.4%)	700	(69.4%)
結婚したいと思わない	292	(15.2%)	180	(9.8%)	128	(12.7%)
わからない	693	(36.1%)	566	(30.7%)	180	(17.9%)
未回答	71	(3.7%)	57	(3.1%)	0	(0.0%)
総計	1921	(100.0%)	1843	(100.0%)	1008	(100.0%)

◎将来、子どもがほしいか (s Q 28、k Q 28)

高校2年生で「欲しい」の割合が増えている。「欲しくない」の割合は概ね一定である。



	小学5年生		中学2年生		高校2年生	
欲しい	958	(49.9%)	870	(47.2%)	576	(57.1%)
欲しくない	224	(11.7%)	209	(11.3%)	123	(12.2%)
わからない・未定	739	(38.5%)	764	(41.5%)	309	(30.7%)
未解答	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)
総計	1921	(100.0%)	1843	(100.0%)	1008	(100.0%)

2-2. 若者のすがた

アンケート調査の対象は、18歳～概ね30歳までの子どもがいない者となっており、これを想定した調査票となっているが、サンプルに偏りがあるため、これを踏まえて集計結果を捉える必要がある。

(1) サンプルについて

◎性別 (wQ1)

女性が71.5%を占める。

	回答数	割合
男性	189	26.0%
女性	520	71.5%
どちらともいえない	9	1.2%
答えたくない	9	1.2%
総計	727	100.0%



◎年齢 (wQ2)

「19歳まで」が42.9%、「20～24歳」が53.1%を占めている。

	合計	割合
19歳まで	312	42.9%
20-24歳	386	53.1%
25-29歳	19	2.6%
30-34歳	5	0.7%
99答えたくない	5	0.7%
総計	727	100.0%



◎最終学歴 (予定含む) (wQ5)

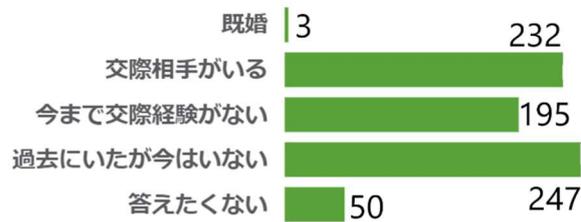
「短期大学・専門学校」が59.4%を占める。

	総計	割合
大学院	11	1.5%
大学	173	23.8%
短期大学・専門学校	432	59.4%
高校	98	13.5%
わからない	2	0.3%
答えたくない	11	1.5%
総計	727	100.0%



◎既婚・未婚（wQ6）

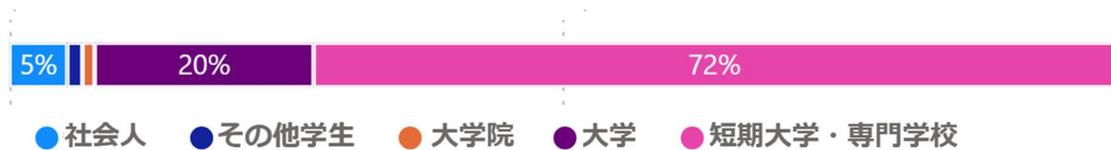
既婚が0.4%、未婚が99.6%。



	総計	割合
既婚	3	0.4%
交際相手がいる	232	31.9%
今まで交際経験がない	195	26.8%
過去にいたが今はいない	247	34.0%
答えたくない	50	6.9%
総計	727	100.0%

◎働き方（wQ8）

学生が94.8%、社会人が5.2%。



		合計	割合
社会人		38	5.2%
学生	その他学生	10	1.4%
	大学院	8	1.1%
	大学	144	19.8%
	短期大学・専門学校	527	72.5%
合計		727	100.0%

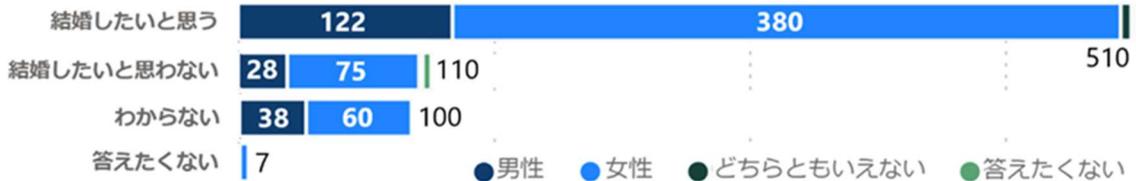
以上のように調査票3（若者）のサンプル群には偏りがある。総じて、サンプル像は、学生が9割以上、女性が7割以上、ほぼ未婚、ほぼ24歳以下となっている。

また、社会人38人のうち「仕事をしている」と回答した人は33人で、調査票の設問によっては、統計としては有意性を考慮する必要がある。

(2) 結婚・家族観について

◎将来、結婚したいか（wQ16）

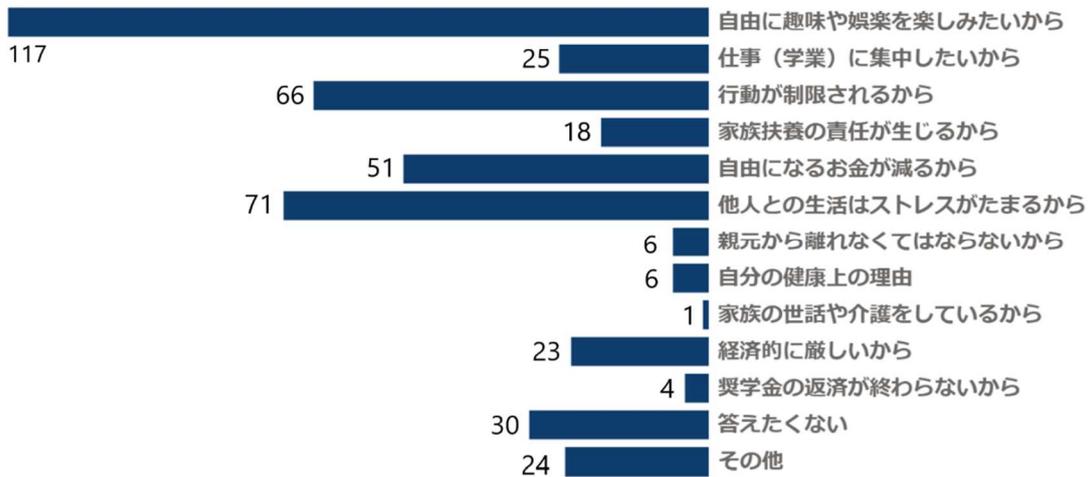
「結婚したいと思う」は7割以上となっている。それぞれ男女比は概ね一定である。



	男性	女性	どちらともいえない	答えたくない	総計	割合
結婚したいと思う	122	380	6	2	510	70.2%
結婚したいと思わない	28	75	2	5	110	15.1%
わからない	38	60	0	2	100	13.8%
答えたくない	1	5	1	0	7	1.0%
総計	189	520	9	9	727	100.0%

◎結婚したいと思わない理由（wQ18）（複数回答）

（wQ16で「結婚したいと思わない」「わからない」と回答した理由）



	男性	女性	どちらともいえない	答えたくない	総計
自由に趣味や娯楽を楽しみたいから	42	72	0	3	117
仕事（学業）に集中したいから	7	17	1	0	25
行動が制限されるから	23	41	0	2	66
家族扶養の責任が生じるから	7	10	1	0	18
自由になるお金が減るから	12	38	0	1	51
他人との生活はストレスがたまるから	15	52	1	3	71
親元から離れなくてはならないから	1	5	0	0	6
自分の健康上の理由	1	5	0	0	6
家族の世話や介護をしているから	0	1	0	0	1
経済的に厳しいから	12	10	1	0	23
奨学金の返済が終わらないから	1	2	1	0	4
答えたくない	11	16	0	3	30
その他	5	19	0	0	24
総計	137	288	5	12	442

◎将来、子どもがほしいか（wQ32）

男女とも8割以上が「欲しい」と回答している。

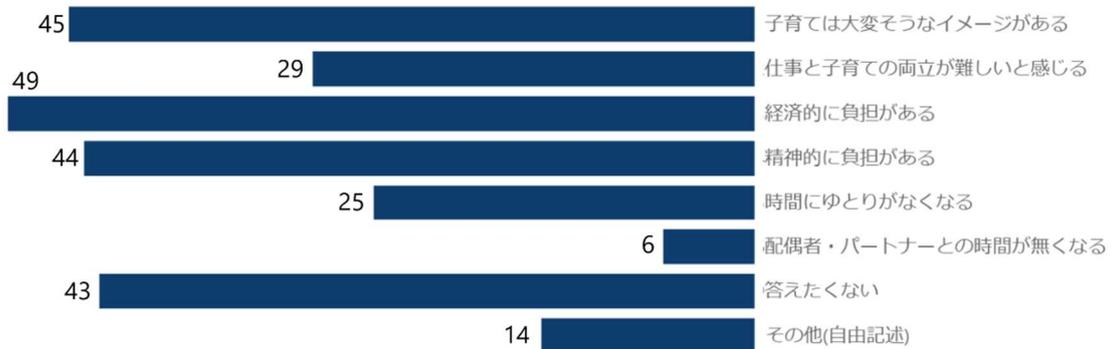


	男性	女性	どちらともいえない	答えたくない	総計	割合
欲しい	157	427	7	3	594	81.7%
欲しくない	32	93	2	6	133	18.3%
総計	189	520	9	9	727	100.0%

◎子どもが欲しくない理由（wQ34・複数回答）

（wQ32で「欲しくない」と回答した理由）

「経済的に負担がある」が最も多く、「子育ては大変そうなイメージがある」、「精神的に負担がある」と続く。



	男性	女性	どちらともいえない	答えたくない	総計
子育ては大変そうなイメージがある	11	32	2	0	45
仕事と子育ての両立が難しいと感じる	7	21	1	0	29
経済的に負担がある	13	34	1	1	49
精神的に負担がある	8	35	0	1	44
時間にゆとりがなくなる	8	16	0	1	25
配偶者・パートナーとの時間が無くなる	1	5	0	0	6
答えたくない	11	27	0	5	43
その他(自由記述)	2	11	1	0	14
総計	61	181	5	8	255

(3) 悩みや心配ごとについて

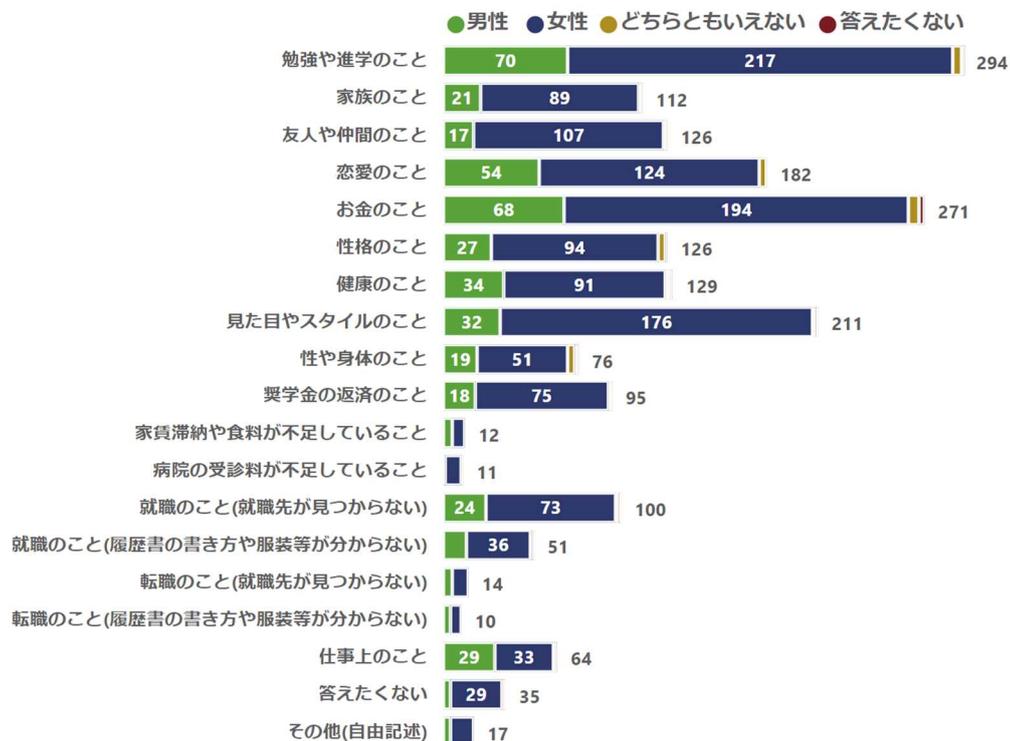
◎悩みや心配ごと (wQ15)

○「あなたは今、悩みや心配ごととありますか」

	男性	女性	どちらともいえない	答えたくない	総計	割合
悩みや心配ごとはない	68	130	1	4	203	27.9%
悩みや心配ごとがある	121	390	8	5	524	72.1%
総計	189	520	9	9	727	100.0%

○「悩みや心配ごとがある」と答えた人のうち選択肢より当てはまるもの全て選択

「勉強や進学のこと」、「お金のこと」が突出して多い。



	男性	女性	どちらともいえない	答えたくない	総計
勉強や進学のこと	70	217	5	2	294
家族のこと	21	89	2	0	112
友人や仲間のこと	17	107	2	0	126
恋愛のこと	54	124	4	0	182
お金のこと	68	194	6	3	271
性格のこと	27	94	4	1	126
健康のこと	34	91	2	2	129
見た目やスタイルのこと	32	176	2	1	211
性や身体のこと	19	51	4	2	76
奨学金の返済のこと	18	75	2	0	95
家賃滞納や食料が不足していること	5	7	0	0	12
病院の受診料が不足していること	1	9	1	0	11
就職のこと(就職先が見つからない)	24	73	2	1	100
就職のこと(履歴書の書き方や服装等が分からない)	13	36	1	1	51
転職のこと(就職先が見つからない)	5	9	0	0	14
転職のこと(履歴書の書き方や服装等が分からない)	4	6	0	0	10
仕事上のこと	29	33	0	2	64
答えたくない	4	29	0	2	35
その他(自由記述)	4	13	0	0	17
総計	517	1563	38	21	1936

2-3. 保護者のすがた

(1) サンプルについて

◎性別・年齢（hQ1、hQ2）

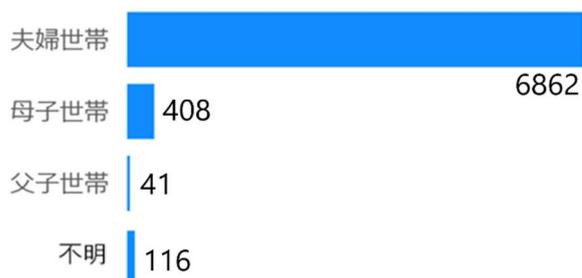
回答者は、女性が88%を占める。30歳～39歳までが46.3%、40歳～49歳までが40.6%を占める。



	男性	女性	どちらともいえない	答えたくない	総計	割合
20-29歳	29	381		3	413	5.6%
30-39歳	301	3109	4	24	3438	46.3%
40-49歳	325	2665	1	25	3016	40.6%
50-59歳	82	365		1	448	6.0%
60歳以上	9	5			14	0.2%
99答えたくない	2	38	1	57	98	1.3%
総計	748	6563	6	110	7427	100.0%
割合	10%	88%	0%	1%	100%	-

◎世帯員（hQ4）

夫婦同居世帯が92.4%を占める。母子世帯5.5%に対し、父子世帯は0.5%。

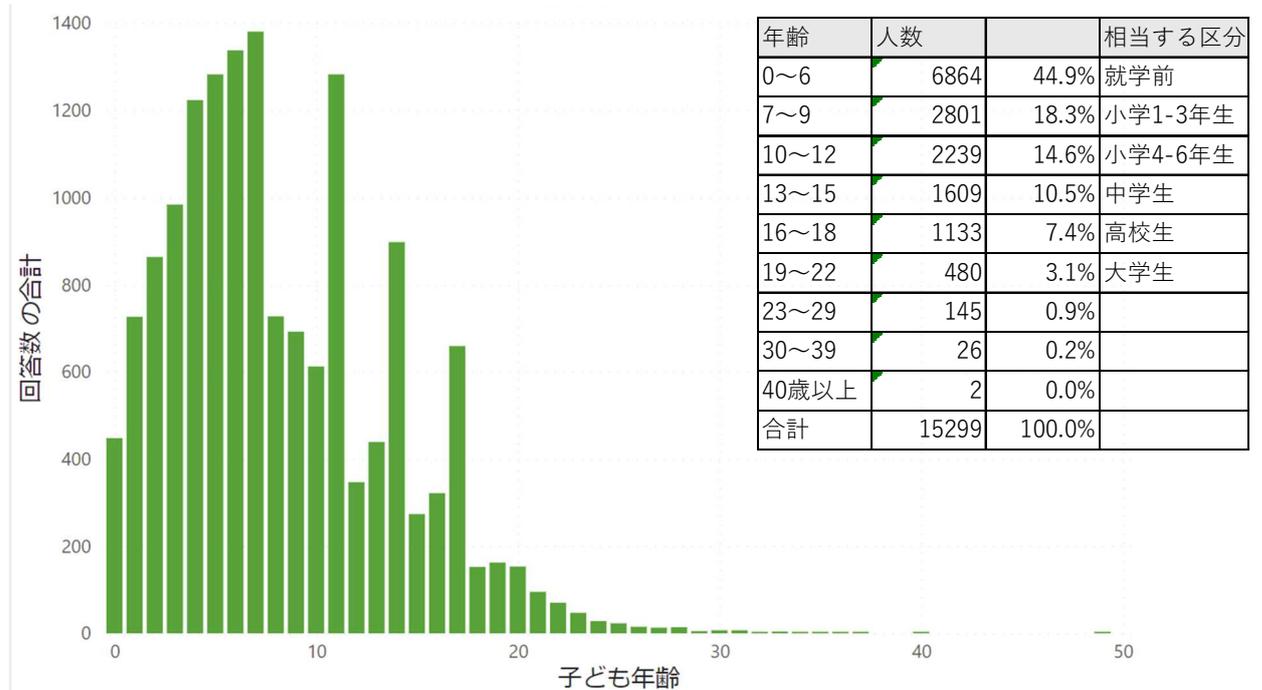


世帯	回答数の合計	割合
夫婦世帯	6862	92.4%
母子世帯	408	5.5%
父子世帯	41	0.5%
不明	116	1.6%
合計	7427	100.0%

◎子どもの年齢、子どもの数（h Q 5）

○子どもの年齢

就学前（に相当する年齢）の子どもが、44.9%を占める。



○子どもの数

子どもの数「2人」の世帯が50.4%を占める。保護者の年齢が29歳までは「1人」が多いが、「30～39歳」からは2人が多くなっている。



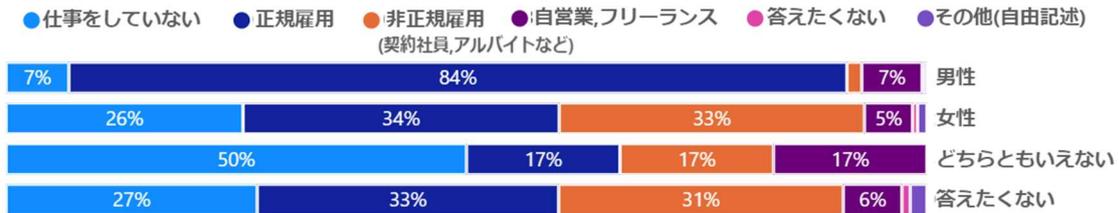
	29歳まで	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上	答えたくない	総計	割合
1人	208	844	613	98	6	37	1806	24.3%
2人	155	1771	1543	227	6	39	3741	50.4%
3人	39	686	723	103	2	21	1574	21.2%
4人	10	115	113	18		1	257	3.5%
5人以上	1	22	24	2			49	0.7%
総計	413	3438	3016	448	14	98	7427	100.0%

(2) 就労状況について

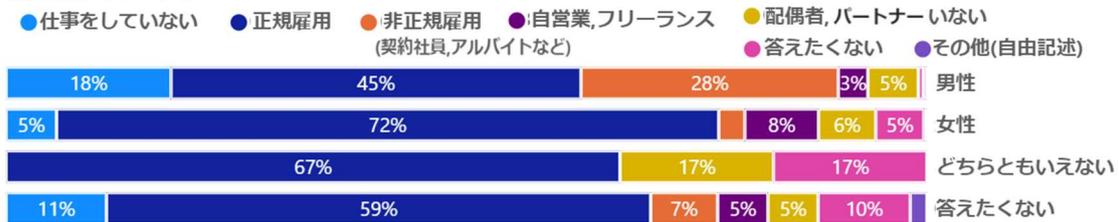
◎保護者の就労状況1 (hQ6、hQ10)

女性回答者は、「仕事をしていない」「正規雇用」「非正規雇用」が、それぞれ概ね30%程度となっている。男性回答者は84%、女性回答者の配偶者/パートナーは72%が正規雇用となっている。

回答者



配偶者/パートナー



[回答者の就労状況]

	男性	女性	どちらともいえない	答えたくない	合計	%
仕事をしていない	51	1,689	3	30	1,773	23.9%
正規雇用	632	2,253	1	36	2,922	39.3%
非正規雇用(契約社員,アルバイトなど)	12	2,175	1	34	2,222	29.9%
自営業,フリーランス	49	343	1	7	400	5.4%
答えたくない	1	36	0	1	38	0.5%
その他(自由記述)	3	67	0	2	72	1.0%
合計	748	6,563	6	110	7,427	100.0%

[配偶者/パートナーの就労状況] ※性別は回答者のもの

	男性	女性	どちらともいえない	答えたくない	合計	%
仕事をしていない	134	360		12	506	6.8%
正規雇用	333	4,719	4	65	5,121	69.0%
非正規雇用(契約社員,アルバイトなど)	209	186		8	403	5.4%
自営業,フリーランス	24	525		6	555	7.5%
配偶者,パートナーはいない	41	408	1	6	456	6.1%
答えたくない	4	342	1	11	358	4.8%
その他(自由記述)	3	23		2	28	0.4%
合計	748	6,563	6	110	7,427	100.0%

◎保護者の就労状況2（hQ6、hQ10）

回答者と配偶者/パートナーを合わせた保護者の就労状況は、以下のとおり。



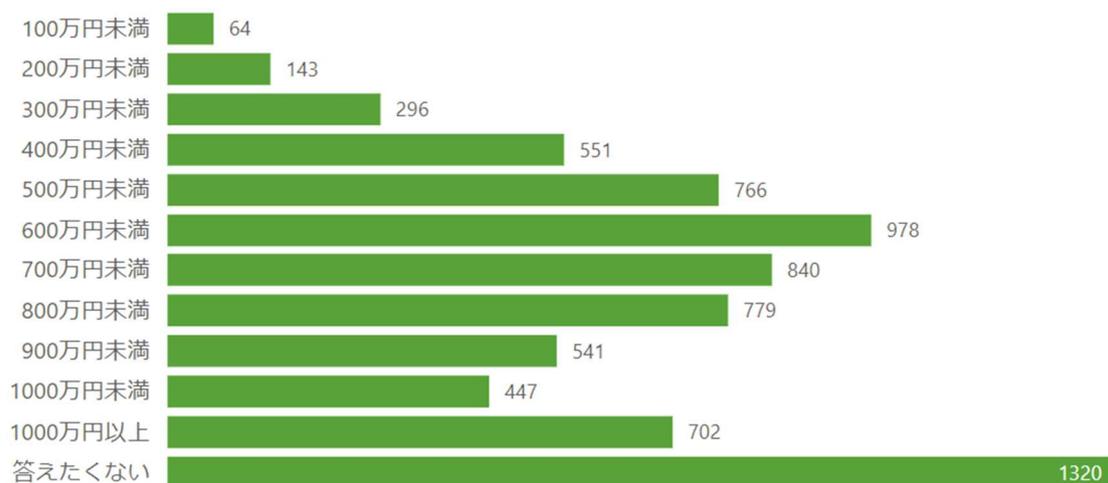
- ・ 正+正：両方とも、正規雇用
- ・ 正+他：一方が正規雇用で、他方が非正規雇用 or 自営業、フリーランス or その他
- ・ 正：一方が正規雇用、他方は働いていない、あるいは、いない
- ・ 他+他：両方とも、非正規雇用 or 自営業、フリーランス or その他
- ・ 他：一方が非正規雇用 or 自営業、フリーランス or その他、他方は働いていない。あるいは、いない
- ・ 無：保護者は全て、働いていない
- ・ 答えたくない：一方、あるいは両方が「答えたくない」と回答している

正規雇用者のいる世帯は全体の79%、共働き世帯は66%となっている。うち、両親ともに正規雇用者の世帯は29%である。

(3) 家計の状況について

◎世帯収入（hQ17）

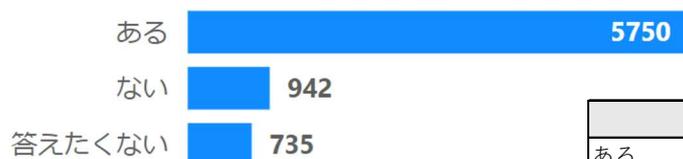
300万円未満までの合計で6.8%、400万円未満までの合計で14.2%となっている。



世帯全収入	回答数	割合
100万円未満	64	0.9%
100万円以上、200万円未満	143	1.9%
200万円以上、300万円未満	296	4.0%
300万円以上、400万円未満	551	7.4%
400万円以上、500万円未満	766	10.3%
500万円以上、600万円未満	978	13.2%
600万円以上、700万円未満	840	11.3%
700万円以上、800万円未満	779	10.5%
800万円以上、900万円未満	541	7.3%
900万円以上、1000万円未満	447	6.0%
1000万円以上	702	9.5%
答えたくない	1320	17.8%
総計	7427	100.0%

◎5万円程度の急な支出が可能な貯金があるか（hQ18）

「ない」が12.7%となっている。

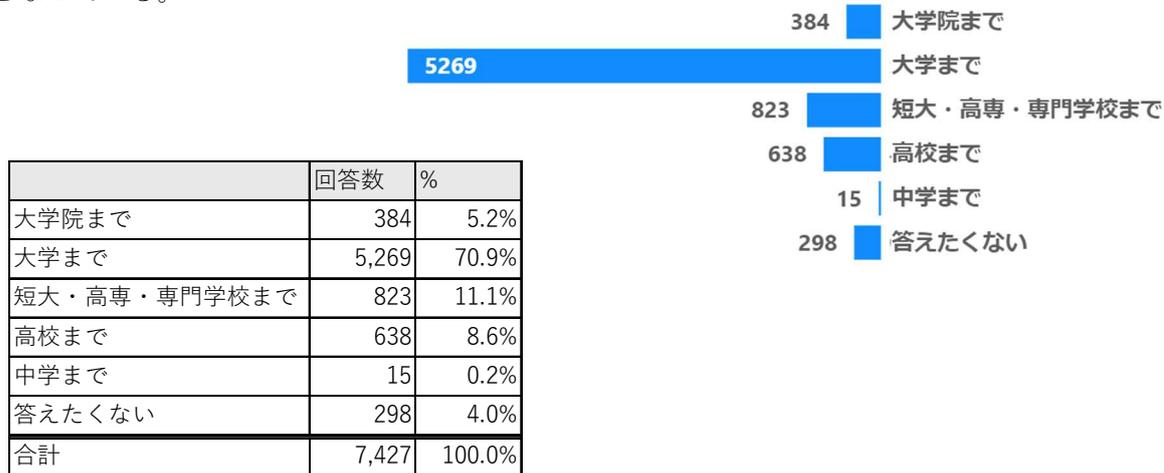


	回答数	%
ある	5,750	77.4%
ない	942	12.7%
答えたくない	735	9.9%
合計	7,427	100.0%

(4) 教育について

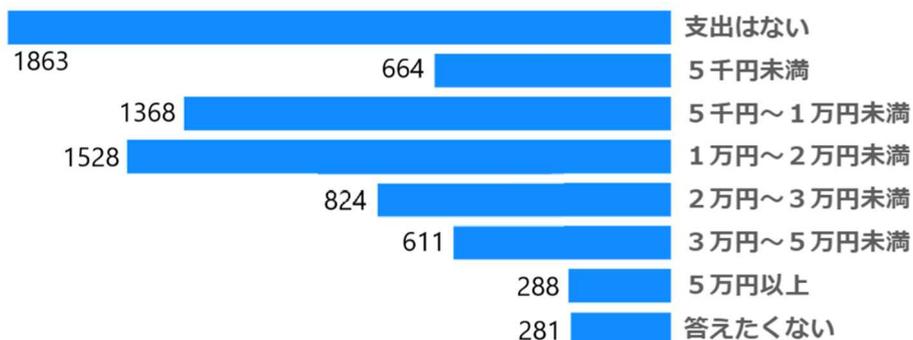
◎子どもに将来受けさせたい教育・進学（hQ24）

「大学まで」が70.9%を占めており、「中学まで」「高校まで」を合わせても8.8%となっている。



◎教育費について（hQ27）

（学校以外の教育（塾や習い事）にかける1か月あたりの平均の支出について、設問対象の子ども1人に対する回答）



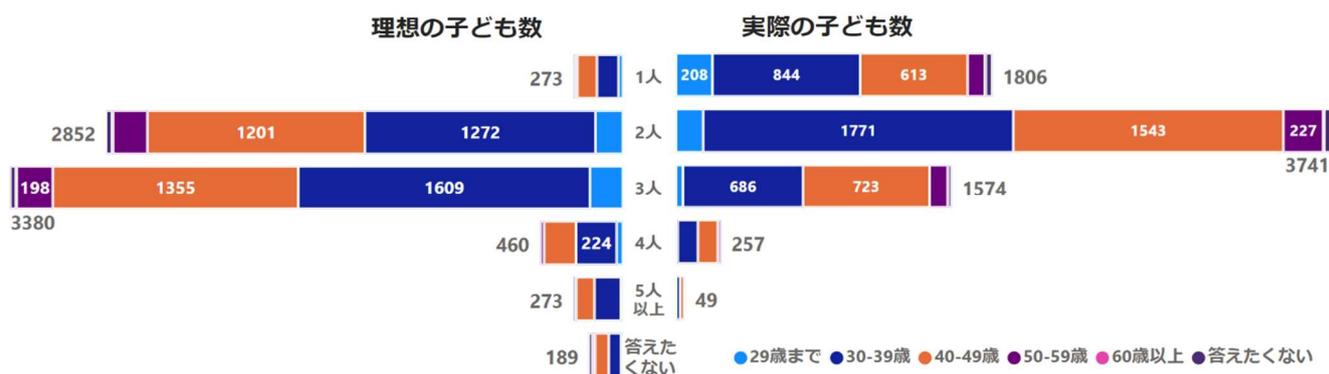
	回答数	%
支出はない	1,863	25.1%
5千円未満	664	8.9%
5千円～1万円未満	1,368	18.4%
1万円～2万円未満	1,528	20.6%
2万円～3万円未満	824	11.1%
3万円～5万円未満	611	8.2%
5万円以上	288	3.9%
答えたくない	281	3.8%
合計	7,427	100.0%

本サンプルの世帯あたりの平均の子どもの数は2.06人、未就学児が約45%を占める。

(5) 子ども・子育てについて

◎理想の子どもの数と実際の子どもの数（hQ34）

理想の子どもの数では「3人」が45.5%で最も多く、実際の子どもの数では「2人」が50.4%で最も多い。平均値でも、理想の子どもの数では2.67人、実際の子どもの数では2.06人と理想の数が上回っている。



実際の子どもの数

	29歳まで	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上	答えたくない	総計	割合
1人(実)	208	844	613	98	6	37	1806	24.3%
2人(実)	155	1771	1543	227	6	39	3741	50.4%
3人(実)	39	686	723	103	2	21	1574	21.2%
4人(実)	10	115	113	18		1	257	3.5%
5人以上(実)	1	22	24	2			49	0.7%
総計	413	3438	3016	448	14	98	7427	100.0%

理想の子どもの数

	29歳まで	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上	答えたくない	総計	割合
1人(理想)	24	119	108	16		6	273	3.7%
2人(理想)	151	1272	1201	189	6	33	2852	38.4%
3人(理想)	182	1609	1355	198	5	31	3380	45.5%
4人(理想)	35	224	176	19	3	3	460	6.2%
5人以上(理想)	11	146	101	11		4	273	3.7%
答えたくない	10	68	75	15		21	189	2.5%
総計	413	3438	3016	448	14	98	7427	100.0%

◎理想の子どもの数より実際の子どもの数が少ない理由（hQ36・複数回答）

（Q34で理想の子どもの数が実際の子どもの数より多かったと回答した3495人の回答）
 「子育ての経済的負担が大きいから」が最も多く、「仕事と子育ての両立が難しいから」、
 「子育てのための肉体的・精神的負担が大きいから」と続き、これらが突出している。



	総計
子育ての経済的負担が大きいから	2587
仕事と子育ての両立が難しいから	1921
子育てのための肉体的・精神的負担が大きいから	1458
子どもを取巻く社会環境に不安があるから	543
欲しいけれど妊娠しないから	568
出産・子育てをこれから行うには高齢であると考えているから	874
パートナーの子育ての協力が無いから	327
少ない子どもに深く関わり育てたいから	83
子育てより自分たちの生活を楽しまたいから	51
子どもが好きではないから	15
子育てが孤独に感じるから	74
希望の保育所に入れなかったから	42
答えたくない	421
総計	8964

◎子育ての負担（hQ35）x子どもの数（hQ5）（複数回答）

【金銭面】

○「負担はある」「負担はない」「答えたくない」より選択

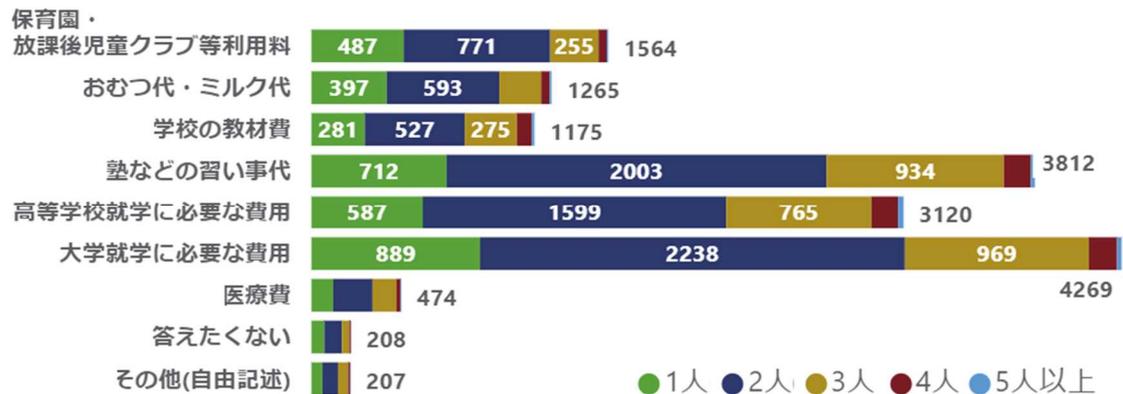
8割以上で負担があると回答している。

	1人(実)	2人(実)	3人(実)	4人(実)	5人以上(実)	総計	割合
負担はある	1395	3128	1378	232	42	6175	83.1%
負担はない	343	520	157	17	7	1044	14.1%
答えたくない	68	93	39	8	0	208	2.8%
総計	1806	3741	1574	257	49	7427	100.0%

○「負担はある」と答えた人のうち、子育てで負担と感ずること（選択肢より複数回答）

「大学就学に必要な費用」が最も多く、「塾などの習い事代」、「高等学校就学に必要な費用」と続き、これらが突出している。

子どもの数による保護者の分布状況としては、同じような構成となっている。



	1人(実)	2人(実)	3人(実)	4人(実)	5人以上(実)	総計
保育園・放課後児童クラブ等利用料	487	771	255	43	8	1564
おむつ代・ミルク代	397	593	221	44	10	1265
学校の教材費	281	527	275	77	15	1175
塾などの習い事代	712	2003	934	141	22	3812
高等学校就学に必要な費用	587	1599	765	140	29	3120
大学就学に必要な費用	889	2238	969	149	24	4269
医療費	115	207	126	22	4	474
答えたくない	68	93	39	8	0	208
その他(自由記述)	58	82	54	10	3	207
総計	3594	8113	3638	634	115	16094

【育児面】

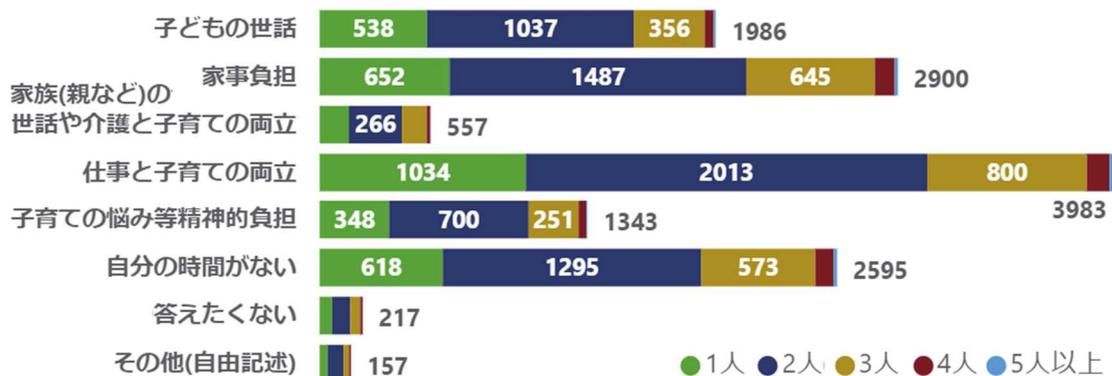
○「負担はある」「負担はない」「答えたくない」より選択

7割以上で負担があると回答している。

	1人(実)	2人(実)	3人(実)	4人(実)	5人以上(実)	総計	割合
負担はある	1400	2861	1180	176	35	5652	76.1%
負担はない	343	789	344	69	13	1558	21.0%
答えたくない	63	91	50	12	1	217	2.9%
総計	1806	3741	1574	257	49	7427	100.0%

○「負担はある」と答えた人のうち子育てで負担と感ずること（選択肢より複数回答）

「仕事と子育ての両立」が最も多く、「家事負担」、「自分の時間がない」と続いている。



	1人(実)	2人(実)	3人(実)	4人(実)	5人以上(実)	総計
子どもの世話	538	1037	356	45	10	1986
家事負担	652	1487	645	100	16	2900
家族(親など)の世話や介護と子育ての両立	147	266	124	18	2	557
仕事と子育ての両立	1034	2013	800	114	22	3983
子育ての悩み等精神的負担	348	700	251	39	5	1343
自分の時間がない	618	1295	573	92	17	2595
答えたくない	63	91	50	12	1	217
その他(自由記述)	40	80	28	9		157
総計	3440	6969	2827	429	73	13738

2-4. 子ども・子育てに関わる施策について

◎国や県が子どもたちのために取り組むべきこと【小学5年生・中学2年生】

(s Q 2 9・複数回答)

小学生・中学生ともに、「子育てのために必要なお金を子育て家庭に配る」「いじめや不登校への対策」「子どもを事故や犯罪から守る対策」が上位3つを占め、突出している。

「その他(自由記述には)」では、小学生の意見として突出して多く見られた要望は「減税」であった。中学生においても「授業料無償化」「子育て世代の減税」「きゅうふ金」など、より具体的な表現の要望が見られ、まちの治安や学校生活、生活環境の改善、遊ぶ場所や便利施設の整備など、多岐にわたる具体的な要望が見られた。



	小学5年生	中学2年生	合計
子育てのために必要なお金を配る	1025	1149	2174
保育所や放課後児童クラブを増やす	166	127	293
家事や育児へのサービスを充実させる	457	572	1029
親が子どもと過ごす時間を増やせるように働き方をかえる	652	567	1219
子育て広場や児童館での親子向けイベント等の充実	196	119	315
いじめや不登校への対策	1099	957	2056
困ったときに相談しやすい電話・SNS・窓口があること	348	224	572
子どもを事故や犯罪から守る対策	1126	770	1896
未回答	80	124	204
その他(自由記述)	78	65	143
総計	5227	4674	9901

◎県が力を入れるべき少子化対策・子育て支援（複数回答）

いずれの調査結果も「進学のための奨学金給付」が突出して最も多かった。

[高校2年生]（k Q 3 2）

「残業の縮減や休暇の取得促進などの働き方改革の推進」が続いて多く、
「その他（自由記述）」では、学費、医療費の負担軽減への言及が複数見られた。

[若者]（w Q 3 7）

「進学のための奨学金給付」以外は、比較的平準な分布となっており、「その他（自由記述）」では、保育関係支援への言及が複数見られた。

[保護者]（w Q 3 8）

「屋内外の子どもが遊べる場所の整備」が続いて多く、「その他（自由記述）」では、498件の記述があり、多岐にわたる分野への記述が見られた。



	高校生	若者	保護者	合計
結婚支援のための出会いの場の創設	90	108	300	498
進学のための奨学金給付	527	344	3708	4579
保育所や放課後児童クラブ等の充実	143	157	2000	2300
病児・病後児保育、一時保育・休日保育の充実	158	135	1570	1863
屋内外の子どもが遊べる場所の整備	182	90	2853	3125
残業の縮減や休暇の取得促進などの働き方改革の推進	265	161	1587	2013
妊娠・出産による離職者の再就職等の支援促進	181	103	718	1002
若者の就労支援(就職活動方法の支援も含む)	102	71	422	595
医療費の助成や小児科医師の確保、不妊治療の支援	113	100	1748	1961
妊娠・出産の支援体制、周産期医療体制の強化	159	73	644	876
家庭での家事・育児援助（ファミリーサポートセンターなど）や子育て支援事業の充実	83	86	1008	1177
児童虐待対策の推進	95	75	245	415
男性の子育て参加の推進	138	87	720	945
いじめや不登校、貧困やひきこもり、ヤングケアラー等困難な状況にある青少年への支援	130	89	861	1080
未就園児への支援	27	38	571	636
答えたくない	92	71	143	306
その他(自由記述)	19	16	498	533
総計	2504	1804	19596	23904

◎地域の子育てサービスの利用経験（hQ31）

地域の子育てサービスの利用経験では、「いばらき KidsClub カード」が92%と多く、児童館や放課後児童クラブと続いた。一方、「子育て支援拠点」の認知度が低かった。

いばらきkidsClubカード



ファミリーサポートセンター



児童館



放課後児童クラブ（学童保育）



放課後子供教室



子育て支援拠点



産後ケア事業



一時保育



病児保育、病後児保育



家事代行サービス



●01利用したことがある ●02知っているが利用したことはない ●03知らない ●99答えたくない

	利用したことがある		知っているが利用したことはない		知らない		答えたくない		合計
いばらきkidsClub カード	6,851	(92.2%)	412	(5.5%)	139	(1.9%)	25	(0.3%)	7,427
ファミリーサポートセンター	626	(8.4%)	3,686	(49.6%)	3,058	(41.2%)	57	(0.8%)	7,427
児童館	3,167	(42.6%)	2,823	(38.0%)	1,378	(18.6%)	59	(0.8%)	7,427
放課後児童クラブ（学童保育）	2,813	(37.9%)	4,218	(56.8%)	327	(4.4%)	69	(0.9%)	7,427
放課後子供教室	732	(9.9%)	2,981	(40.1%)	3,645	(49.1%)	69	(0.9%)	7,427
子育て支援拠点	1,227	(16.5%)	1,635	(22.0%)	4,477	(60.3%)	88	(1.2%)	7,427
産後ケア事業	599	(8.1%)	3,121	(42.0%)	3,629	(48.9%)	78	(1.1%)	7,427
一時保育	1,512	(20.4%)	4,643	(62.5%)	1,209	(16.3%)	63	(0.8%)	7,427
病児保育、病後児保育	414	(5.6%)	5,160	(69.5%)	1,788	(24.1%)	65	(0.9%)	7,427
家事代行サービス	84	(1.1%)	4,724	(63.6%)	2,562	(34.5%)	57	(0.8%)	7,427

◎手当や支援の利用経験（hQ16）

地域の子育てサービスと比べて、手当や支援は対象者が限られるので、利用経験のある保護者の割合は少ない。利用経験者が最も多い「公的機関の窓口」20%、これに続く「学校または学校関係者への相談」19%は、対象者が限られない。3番目に多いのが「児童扶養手当」18%となっている。

児童扶養手当



障害や難病の手当



小中学校の就学援助



高等学校等就学支援金



就学資金の貸付



給付型の奨学金



公的機関の窓口



学校または学校関係者への相談



無料または低料金で利用できる家庭教師、地域での学習支援



住宅を探したり、住宅費が軽減される援助



生活保護



生活に必要な資金の貸付



離婚等により、別れて暮らす子どもの親からの養育費



● 01利用中・利用したことがある ● 02知らなかったが、今後利用したい ● 03利用の必要がない ● 99答えたくない

	利用中・利用 したことがある	知らなかったが 今後利用したい	利用の必要がない	答えたくない	合計
児童扶養手当	1,337 (18.0%)	190 (2.6%)	5,640 (75.9%)	260 (3.5%)	7,427
障害や難病の手当	239 (3.2%)	229 (3.1%)	6,693 (90.1%)	266 (3.6%)	7,427
小中学校の就学援助	301 (4.1%)	703 (9.5%)	6,127 (82.5%)	296 (4.0%)	7,427
高等学校等就学支援金	713 (9.6%)	1,929 (26.0%)	4,367 (58.8%)	418 (5.6%)	7,427
就学資金の貸付	315 (4.2%)	1,661 (22.4%)	4,791 (64.5%)	660 (8.9%)	7,427
給付型の奨学金	158 (2.1%)	2,611 (35.2%)	3,967 (53.4%)	691 (9.3%)	7,427
公的機関の窓口	1,461 (19.7%)	1,160 (15.6%)	4,248 (57.2%)	558 (7.5%)	7,427
学校または学校関係者への相談	1,411 (19.0%)	1,215 (16.4%)	4,175 (56.2%)	626 (8.4%)	7,427
無料または低料金で利用できる家庭教師、地域での学習支援	143 (1.9%)	3,886 (52.3%)	3,024 (40.7%)	374 (5.0%)	7,427
住宅を探したり、住宅費が軽減される援助	422 (5.7%)	2,431 (32.7%)	4,193 (56.5%)	381 (5.1%)	7,427
生活保護	19 (0.3%)	201 (2.7%)	6,871 (92.5%)	336 (4.5%)	7,427
生活に必要な資金の貸付	75 (1.0%)	658 (8.9%)	6,223 (83.8%)	471 (6.3%)	7,427
離婚等により、別れて暮らす子どもの親からの養育費	213 (2.9%)	287 (3.9%)	6,403 (86.2%)	524 (7.1%)	7,427

§ 3 調査結果（クロス集計・分析）

3-1. 世帯区分

(1) 世帯区分の検討

本調査では、調査対象とした小学校、中学校、高等学校の生徒と保護者について、紐づけ調査を行っている。これにより、世帯収入と子どもの意識や保護者の状況等との関係を明らかにするため、世帯区分を検討する。調査票4【保護者】Q17の回答の所得カテゴリーの中央値を使用し、以下のように分類している。

Q17. あなたのご家族全員の収入（ボーナスなどを含む）を併せたおおよその世帯年収を年間の手取り額で教えてください。（どれか1つ）

※ここでいう収入とは、働いて得た収入（パート・アルバイトを含む）だけでなく、不動産所得や株式の配当、年金、児童手当や児童扶養手当など公的な援助手当等すべての収入を含みます。

※手取り額とは、税金、健康保険料や年金保険料、介護保険料を支払った後の金額になります。社内貯金や住宅ローンなど、給与から天引きされる貯蓄・借金などがある場合は、天引き前の金額になります。

- | | | |
|----------------|--------------|--------------|
| ・100万円未満 | ・100～200万円未満 | ・200～300万円未満 |
| ・300～400万円未満 | ・400～500万円未満 | ・500～600万円未満 |
| ・600～700万円未満 | ・700～800万円未満 | ・800～900万円未満 |
| ・900～1,000万円未満 | ・1,000万円以上 | ・答えたくない |

- ・世帯区分1：「所得階層1」 = 0円 ≤ *等価可処分所得 < 127万円
- ・世帯区分2：「所得階層2」 = *127万円 ≤ *等価可処分所得 < 254万円
- ・世帯区分3：「所得階層3」 = 254万円 ≤ *等価可処分所得
- ・世帯区分不明：所得あるいは世帯員数不明。

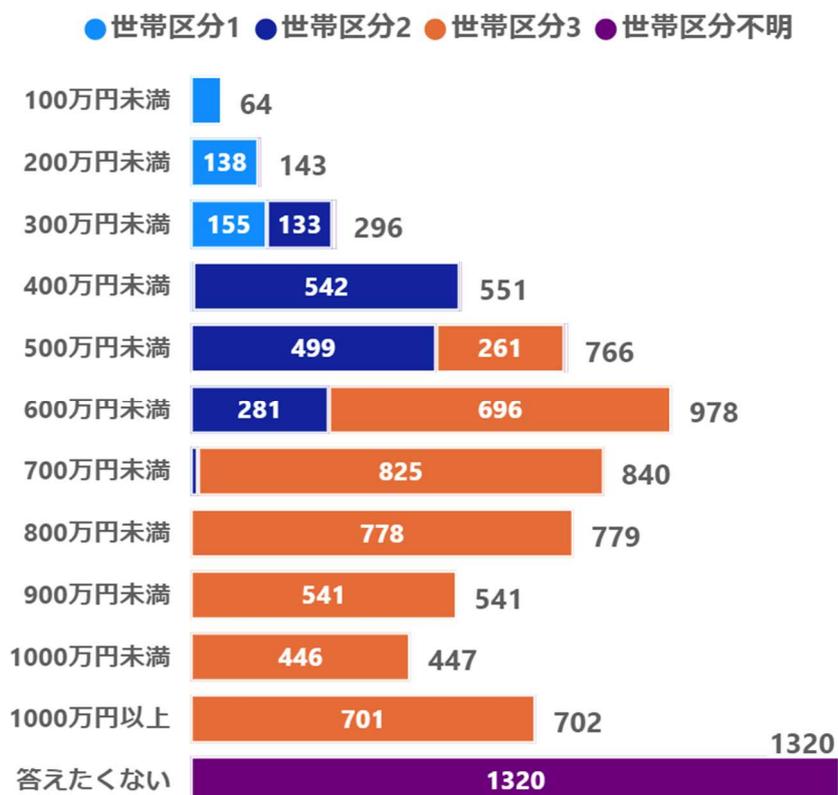
*等価可処分所得：

等価可処分所得 = 所得(所得中央値) / $\sqrt{\text{世帯の状況(世帯員数)}}$ ※切り上げとする

*127万円：

「令和4年度国民生活基礎調査」による貧困線（等価可処分所得の中央値の半分）

世帯区分状況は以下のとおり。「世帯区分3」が57%を占めている。



	世帯区分1	世帯区分2	世帯区分3	世帯区分不明	総計
100万円未満	64				64
100万円以上200万円未満	138			5	143
200万円以上300万円未満	155	133		8	296
300万円以上400万円未満	5	542		4	551
400万円以上500万円未満		499	261	6	766
500万円以上600万円未満		281	696	1	978
600万円以上700万円未満		15	825		840
700万円以上800万円未満			778	1	779
800万円以上900万円未満			541		541
900万円以上1000万円未満			446	1	447
1000万円以上			701	1	702
答えたくない				1320	1320
総計	362	1470	4248	1347	7427
割合	4.9%	19.8%	57.2%	18.1%	100.0%



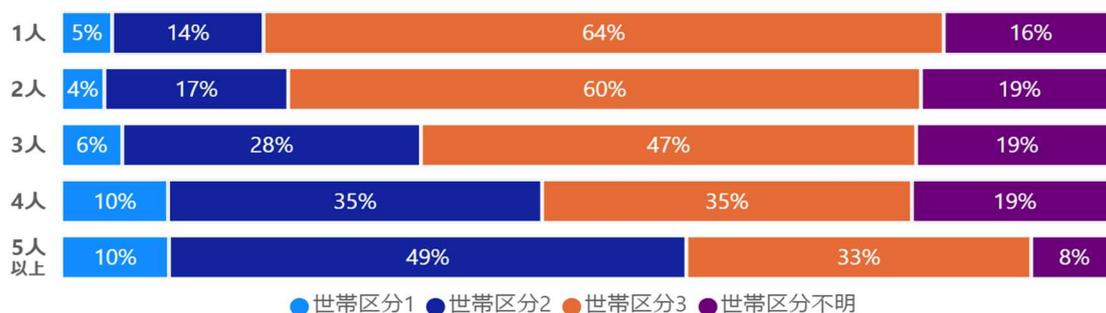
●世帯区分1 ●世帯区分2 ●世帯区分3 ●世帯区分不明

(2) 世帯区分による調査票4（保護者）の分析

本項では「調査票4」のアンケート集計により明らかにした「保護者のすがた」について、世帯区分を属性としたクロス集計・分析を行う。

◎子どもの数（hQ5）

世帯区分1、2より世帯区分3の方が、平均の子どもの数が少ない。

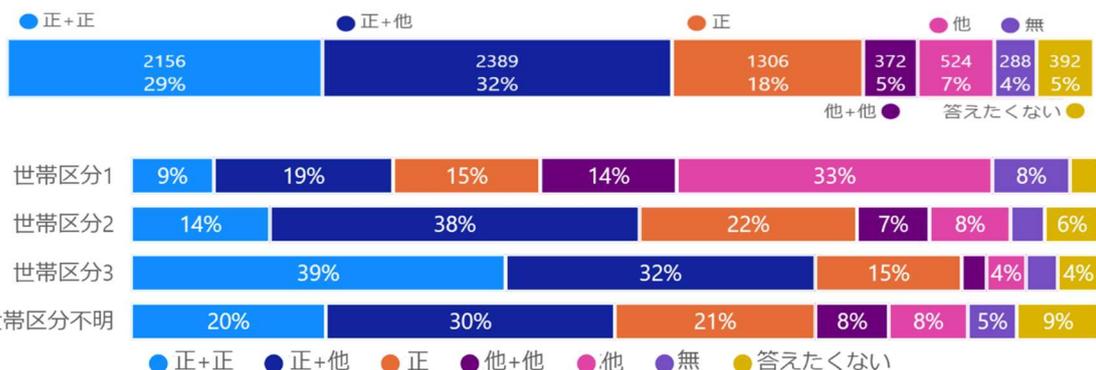
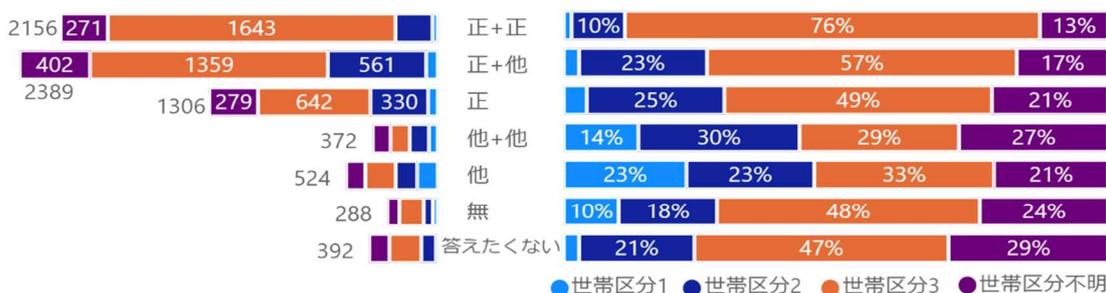


子供の数	世帯区分1	世帯区分2	世帯区分3	世帯区分不明	総計
1人	87 (4.8%)	259 (14.3%)	1163 (64.4%)	297 (16.4%)	1806 (100.0%)
2人	153 (4.1%)	651 (17.4%)	2241 (59.9%)	696 (18.6%)	3741 (100.0%)
3人	91 (5.8%)	445 (28.3%)	738 (46.9%)	300 (19.1%)	1574 (100.0%)
4人	26 (10.1%)	91 (35.4%)	90 (35.0%)	50 (19.5%)	257 (100.0%)
5人以上	5 (10.2%)	24 (49.0%)	16 (32.7%)	4 (8.2%)	49 (100.0%)
総計	362	1470	4248	1347	7427
平均の子供の数	2.20	2.30	1.95	2.09	2.06

◎世帯における保護者の就労状況（雇用形態）（hQ6、10）

アンケート回答者とその配偶者/パートナーの就労状況の実態を明らかにする。両親共に正規雇用の世帯は29%あり、このうち76%を「世帯区分3」が占め、「世帯区分3」の中の雇用形態においても「正+正」が39%と最も多く、他の区分と比べると、その割合の高さも突出している。「世帯区分2」では、「正+他」が最も多い。また、「世帯区分1」では、「他」が33%と最も多く、突出している。全体として、雇用形態は等価可処分所得との相関関係がみられる。

世帯働き方(雇用)

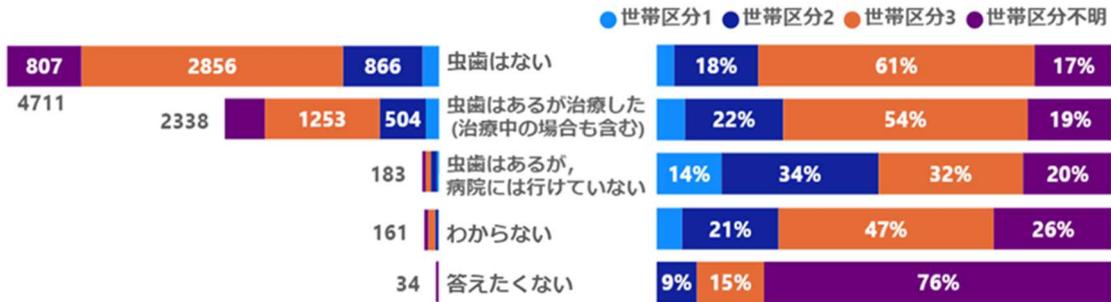


	世帯区分1	世帯区分2	世帯区分3	世帯区分不明	総計	割合
正+正	31	211	1643	271	2156	29.0%
正+他	67	561	1359	402	2389	32.2%
正	55	330	642	279	1306	17.6%
他+他	51	110	109	102	372	5.0%
他	118	123	173	110	524	7.1%
無	29	52	139	68	288	3.9%
答えたくない	11	83	183	115	392	5.3%
総計	362	1470	4248	1347	7427	100.0%

- ・ 正+正：両方とも、正規雇用
- ・ 正+他：一方が正規雇用で、他方が非正規雇用 or 自営業、フリーランス or その他
- ・ 正：一方が正規雇用、他方は働いていない、あるいは、いない
- ・ 他+他：両方とも、非正規雇用 or 自営業、フリーランス or その他
- ・ 他：一方が非正規雇用 or 自営業、フリーランス or その他、他方は働いていない。あるいは、いない
- ・ 無：保護者は全て、働いていない
- ・ 答えたくない：一方、あるいは両方が「答えたくない」と回答している

◎子どもの虫歯の状況（hQ23）

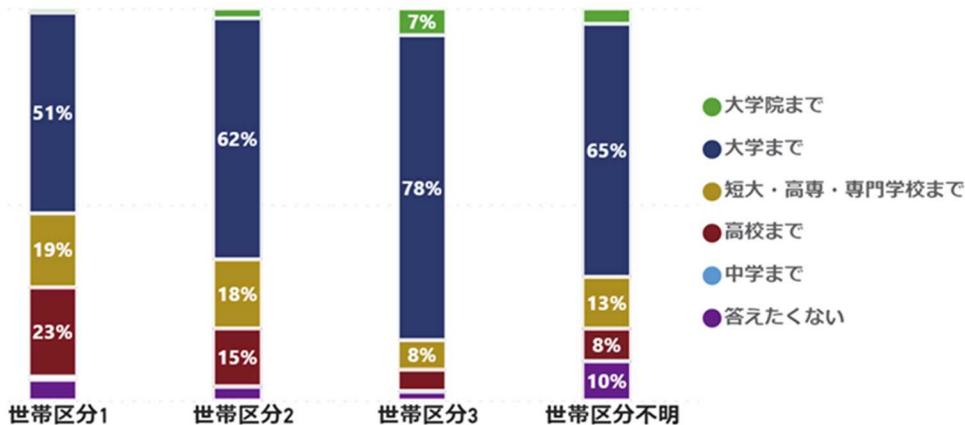
「虫歯はあるが病院には行けていない」では他の項目と大きく割合が変わり、「世帯区分1及び2」では世帯数割合より増加し、「世帯区分3」では減少している。



	世帯区分1	世帯区分2	世帯区分3	世帯区分不明	総計	割合
虫歯はない	182	866	2856	807	4711	63.4%
虫歯はあるが治療した(治療中の場合も含む)	145	504	1253	436	2338	31.5%
虫歯はあるが、病院には行けていない	26	63	58	36	183	2.5%
わからない	9	34	76	42	161	2.2%
答えたくない		3	5	26	34	0.5%
総計	362	1470	4248	1347	7427	100.0%

◎子どもの将来の進学・進路（hQ24）

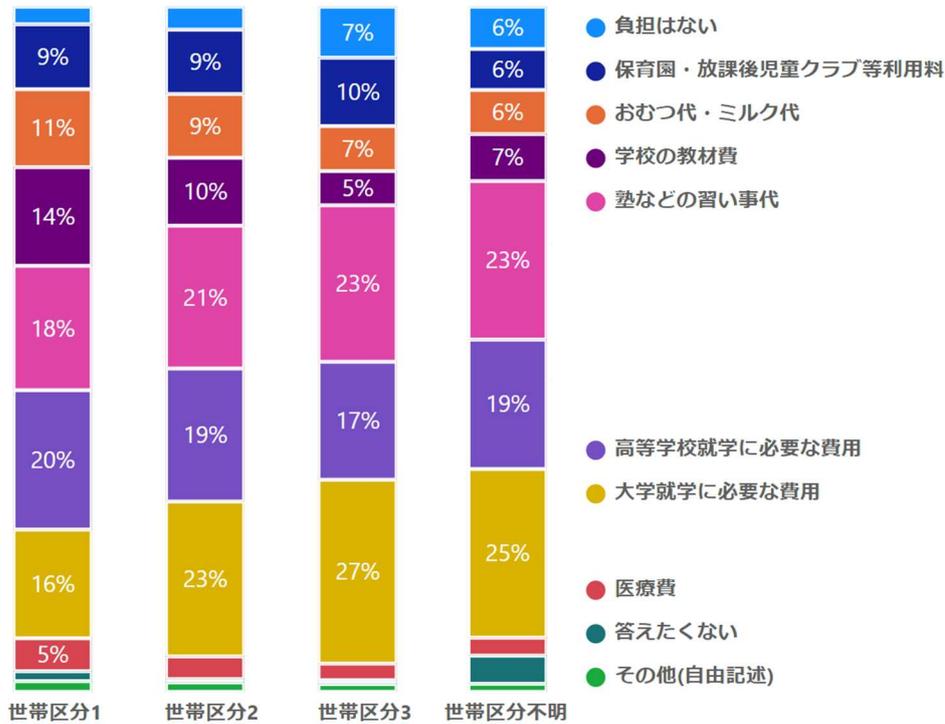
世帯区分1から3にかけて大学進学希望の割合が高くなっており、等価可処分所得との相関関係がみられる。



	世帯区分1	世帯区分2	世帯区分3	世帯区分不明	総計	割合
大学院まで	4	37	290	53	384	5.2%
大学まで	185	906	3307	871	5269	70.9%
短大・高専・専門学校まで	69	258	319	177	823	11.1%
高校まで	82	216	229	111	638	8.6%
中学まで	3	2	9	1	15	0.2%
答えたくない	19	51	94	134	298	4.0%
総計	362	1470	4248	1347	7427	100.0%

◎子育てで負担と感ずること：金銭面（hQ35・複数回答）

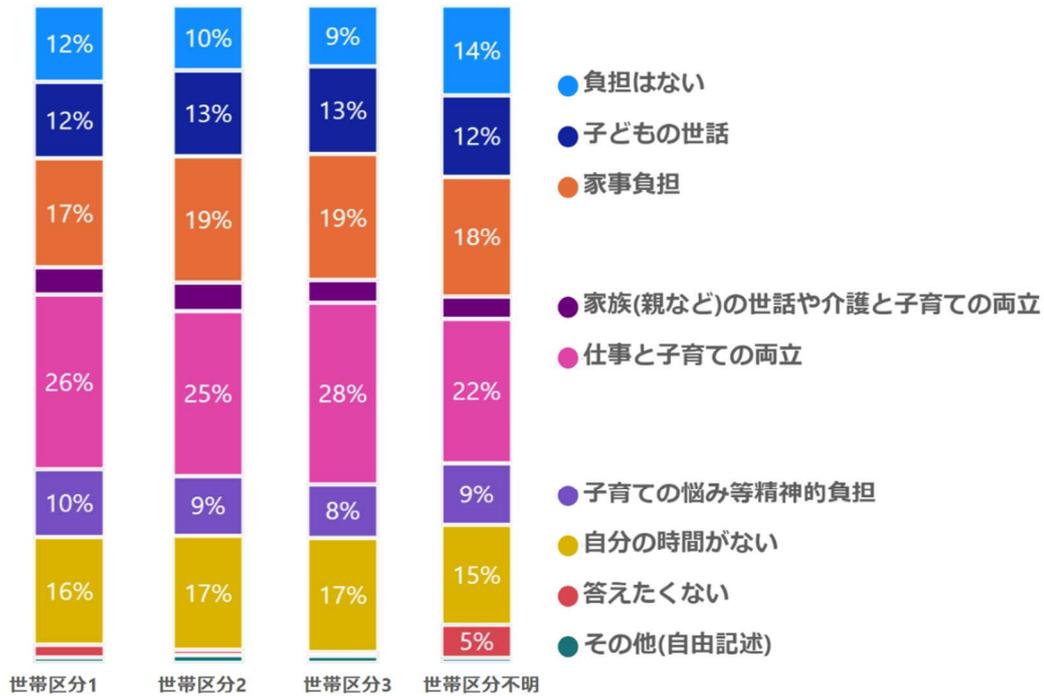
世帯区分1から3にかけて、「負担はない」「塾などの習い事」「大学就学に必要な費用」と答えた人の割合が段階的に増大し、「おむつ代・ミルク代」「学校の教材費」「高等学校就学に必要な費用」が減少している。



	世帯区分1	世帯区分2	世帯区分3	世帯区分不明	総計
負担はない	23	123	714	184	1044
保育園・放課後児童クラブ等利用料	85	344	957	178	1564
おむつ代・ミルク代	102	341	630	192	1265
学校の教材費	129	363	479	204	1175
塾などの習い事代	164	769	2190	689	3812
高等学校就学に必要な費用	182	710	1662	566	3120
大学就学に必要な費用	142	827	2568	732	4269
医療費	43	121	232	78	474
答えたくない	13	18	55	122	208
その他(自由記述)	14	50	108	35	207
総計	897	3666	9595	2980	17138

◎子育てで負担と感ずること：育児面（hQ35・複数回答）

世帯区分1から3にかけて、「負担はない」「子育ての悩み等精神的負担」と答えた人の割合が段階的に減少している。その他項目では、世帯区分における子育ての負担については同様な割合を示し、両者の関連性は小さいと考えられる。



	世帯区分1	世帯区分2	世帯区分3	世帯区分不明	総計
負担はない	84	301	830	343	1558
子どもの世話	84	398	1193	311	1986
家事負担	121	590	1729	460	2900
家族(親など)の世話や介護と子育ての両立	30	132	310	85	557
仕事と子育ての両立	192	765	2475	551	3983
子育ての悩み等精神的負担	76	282	746	239	1343
自分の時間がない	119	531	1562	383	2595
答えたくない	14	25	51	127	217
その他(自由記述)	6	36	96	19	157
総計	726	3060	8992	2518	15296

3-2. 紐づけ調査

(1) 紐づけ調査の方法

県内の地域ごとに選定された小学校(5年生)、中学校(2年生)、高等学校(2年生)におけるアンケート調査において、保護者との紐づけ調査を行った。こどもの調査票と共にナンバリングされた保護者向け調査案内をこども経由で保護者に配布することで、こどもと保護者の調査票の紐づけを行った。

地域	小5	中2	高2	※	総計	割合
県央(水戸)	225	146	74		445	19.7%
県西	137	140	220		497	22.0%
県南	428	234	232		894	39.6%
県北	131	41			172	7.6%
鹿行	102	82	45		229	10.2%
※不明				18	18	0.8%
総計	1023	643	571	18	2255	100.0%

(2) 紐づけ対象保護者回答状況

紐づけ調査の有効回答数は、回答率が低い傾向にある「保護者」の回答によって絞られる。今回は全体で対象数の38%程度の回収率となっている。

紐付対象保護者の属性	想定対象数	回答数	回収率	(調査票配布数 / 回答率)
小学5年生の保護者	2000	1023	51.2%	(2,076 / 49.3%)
中学2年生の保護者	2000	643	32.2%	(2,112 / 30.4%)
高校2年生の保護者	2000	571	28.6%	(2,108 / 27.1%)
不明	—	18	—	—
総計	6000	2255	37.6%	(6,296 / 35.8%)

(3) 紐づけ対象者の有効回答数について

紐づけ番号が入力された保護者の回答数としては「2270」となるが、このうち、番号が重複するものが「15」、紐づけ先の無いものが「18」あり、紐づけ調査の有効回答数としては「2237」となる。これらは何れもウェブ入力時のミスによるものと思われる。

高校2年生についても、同様の状況が発生しており、回答数としては「1008」であるが、このうち、番号が重複するものが「10」、紐づけ先の無いものが「16」、紐づけ調査の対象の有効回答数としては「982」となっている。

小学5年生、中学2年生については紙媒体の調査票にあらかじめ番号が印刷されているため、上記のようなトラブルは起こっていない。

(4) 保護者の世帯区分を属性とした子どもと子育ての現況

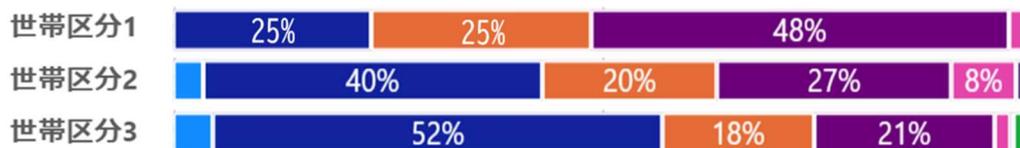
本項では、保護者の世帯区分を属性として紐づけられた子どもの状況を、調査票1、調査票2の設問でクロス集計・分析を行った。

◎将来希望する最終学歴（sQ10、kQ4）x世帯区分

小学5年生と中学2年生では、等価可処分所得が高くなるに伴い、高校までの進学希望者の割合が減り、大学あるいは大学院への進学希望者の割合が増えている。

高校2年生でも等価可処分所得が高くなるに伴い、高校までの進学希望者の割合は減っている。

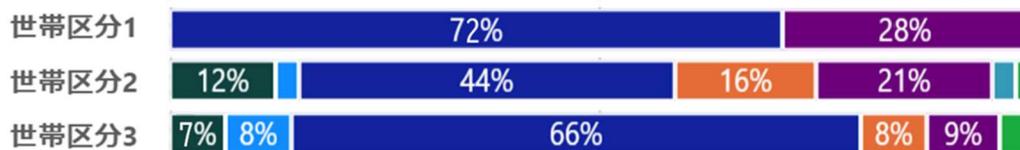
小学5年生



中学2年生



高校2年生



● 大学院 ● 大学 ● 短期大学・専門学校 ● 高校 ● 中学校
 ● 未回答 ● その他(自由記述) ● わからない

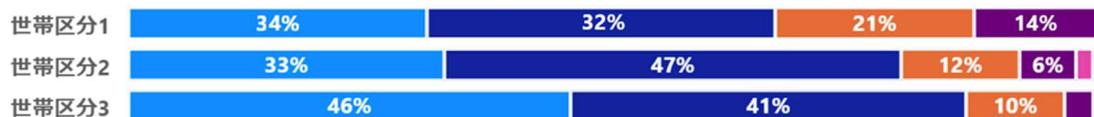
学年	小学5年生				中学2年生				高校2年生			
	1	2	3	総計	1	2	3	総計	1	2	3	総計
大学院	0	6	25	31	0	2	6	8	0	2	19	21
大学	11	68	284	363	11	65	188	264	13	32	164	209
短期大学・専門学校	11	35	96	142	6	28	54	88	0	12	19	31
高校	21	47	114	182	19	36	57	112	5	15	21	41
中学校	1	13	10	24	0	0	2	2	0	0	0	0
未解答	0	2	2	4	0	1	1	2	0	0	0	0
わからない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	16	25
答えたくない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
その他(自由記述)	0	1	11	12	1	1	3	5	0	1	8	9
合計	44	172	542	758	37	133	311	481	18	73	247	338

◎学校の授業がわかりますか（s Q 7、k Q 5）x世帯区分

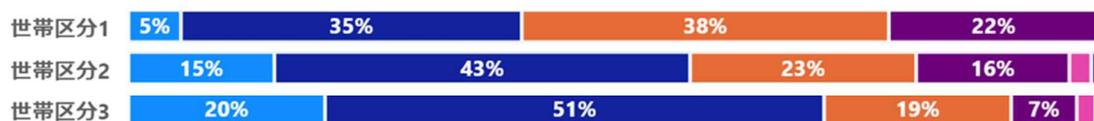
小学5年生・中学2年生では、等価可処分所得が高くなるに伴い、授業の理解度も高くなる傾向が見受けられる。

高校2年生でも同様の相関関係がみられるものの、小学5年生・中学2年生と比べて、その傾向は弱くなっている。

小学5年生



中学2年生



高校2年生

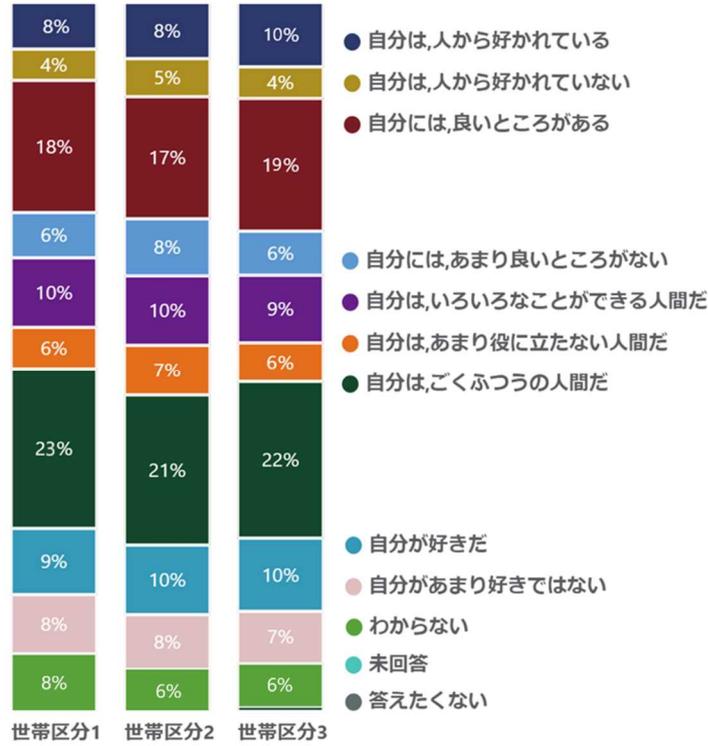


- ほとんどわかる
- だいたいわかる
- 半分くらいわかる
- わからないことが多い
- ほとんどわからない
- 答えたくない
- 未回答

学年 世帯区分	小学5年生				中学2年生				高校2年生			
	1	2	3	総計	1	2	3	総計	1	2	3	総計
ほとんどわかる	15	56	247	318	2	20	63	85	2	4	25	31
だいたいわかる	14	81	221	316	13	57	160	230	8	38	127	173
半分くらいわかる	9	21	55	85	14	31	60	105	5	22	69	96
わからないことが多い	6	10	16	32	8	21	21	50	2	8	25	35
ほとんどわからない	0	3	3	6	0	3	6	9	0	0	0	0
未回答	0	1	0	1	0	1	1	2	0	0	0	0
答えたくない	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3
合計	44	172	542	758	37	133	311	481	18	73	247	338

◎「自分自身をどのように感じますか」(sQ5、kQ3) x 世帯区分 (※複数回答)

各世帯区分を通して割合の構成に差異はほとんどなく、等価可処分所得と自己評価との相関関係は見受けられない。



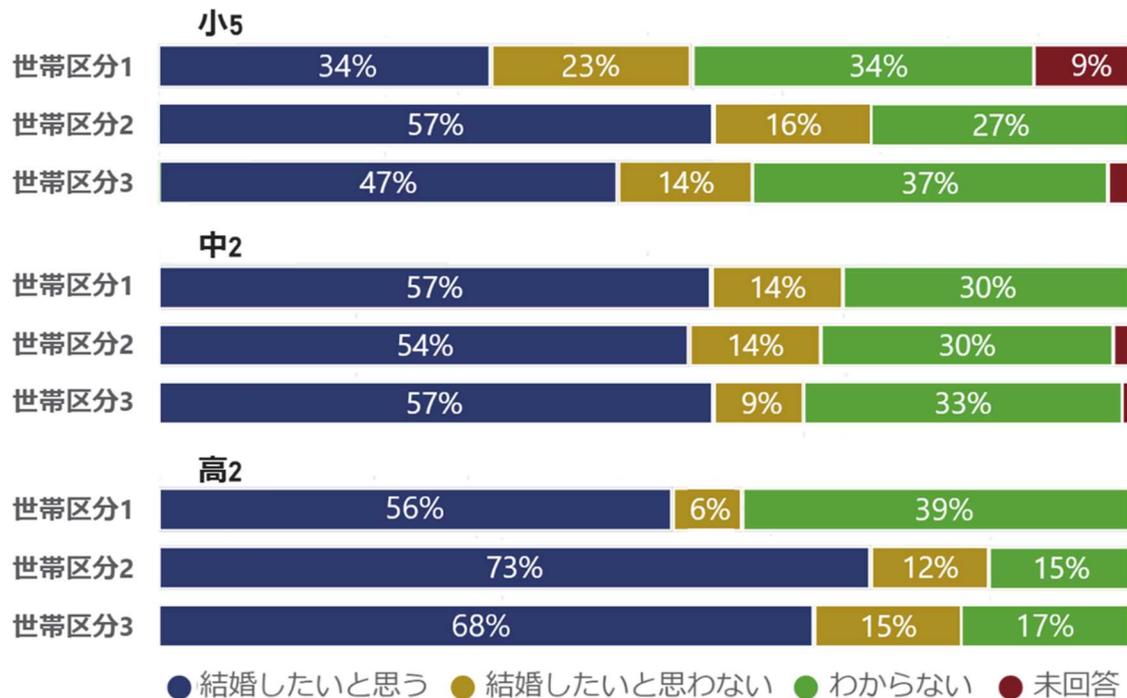
世帯区分 (小・中・高 合計)	1	2	3	総計
自分は、人から好かれている	19 (8.3%)	76 (7.9%)	265 (9.7%)	360 (9.2%)
自分は、人から好かれていない	9 (3.9%)	50 (5.2%)	122 (4.5%)	181 (4.6%)
自分には、良いところがある	41 (17.8%)	166 (17.3%)	510 (18.7%)	717 (18.3%)
自分には、あまり良いところがない	14 (6.1%)	76 (7.9%)	168 (6.2%)	258 (6.6%)
自分は、いろいろなことができる人間だ	22 (9.6%)	94 (9.8%)	258 (9.5%)	374 (9.6%)
自分は、あまり役に立たない人間だ	14 (6.1%)	67 (7.0%)	150 (5.5%)	231 (5.9%)
自分は、ごくふつうの人間だ	52 (22.6%)	202 (21.0%)	602 (22.1%)	856 (21.9%)
自分が好きだ	21 (9.1%)	94 (9.8%)	280 (10.3%)	395 (10.1%)
自分があまり好きではない	19 (8.3%)	75 (7.8%)	191 (7.0%)	285 (7.3%)
わからない	19 (8.3%)	59 (6.1%)	167 (6.1%)	245 (6.3%)
未回答	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
答えたくない	0 (0.0%)	1 (0.1%)	8 (0.3%)	9 (0.2%)
合計	230 (100%)	960 (100%)	2721 (100%)	3911 (100%)

※小学5年生、中学2年生、高校2年生を合算したグラフを示す。学年の間でも割合の構成に差異はほとんど見られない。

学年	小学5年生					中学2年生					高校2年生				
	1	2	3	総計		1	2	3	総計		1	2	3	総計	
自分は、人から好かれている	12	37	132	181	(9.1%)	4	26	72	102	(8.4%)	3	13	61	77	(10.8%)
自分は、人から好かれていない	6	23	60	89	(4.5%)	1	22	36	59	(4.9%)	2	5	26	33	(4.6%)
自分には、良いところがある	21	88	270	379	(19.1%)	15	52	153	220	(18.2%)	5	26	87	118	(16.5%)
自分には、あまり良いところがない	6	31	84	121	(6.1%)	6	32	42	80	(6.6%)	2	13	42	57	(8.0%)
自分は、いろいろなことができる人間だ	12	57	143	212	(10.7%)	9	27	69	105	(8.7%)	1	10	46	57	(8.0%)
自分は、あまり役に立たない人間だ	8	29	69	106	(5.3%)	3	25	39	67	(5.5%)	3	13	42	58	(8.1%)
自分は、ごくふつうの人間だ	20	92	308	420	(21.2%)	23	74	174	271	(22.4%)	9	36	120	165	(23.0%)
自分が好きだ	8	39	147	194	(9.8%)	8	35	74	117	(9.7%)	5	20	59	84	(11.7%)
自分があまり好きではない	9	38	87	134	(6.8%)	9	25	60	94	(7.8%)	1	12	44	57	(8.0%)
わからない	13	34	101	148	(7.5%)	6	25	65	96	(7.9%)	0	0	1	1	(0.1%)
未回答	0	0	0	0	(0.0%)	0	0	0	0	(0.0%)	0	0	0	0	(0.0%)
答えたくない	0	0	0	0	(0.0%)	0	0	0	0	(0.0%)	0	1	8	9	(1.3%)
合計	115	468	1401	1984	(100%)	84	343	784	1211	(100%)	31	149	536	716	(100%)

◎将来、結婚したいか（sQ27、kQ24）x世帯区分

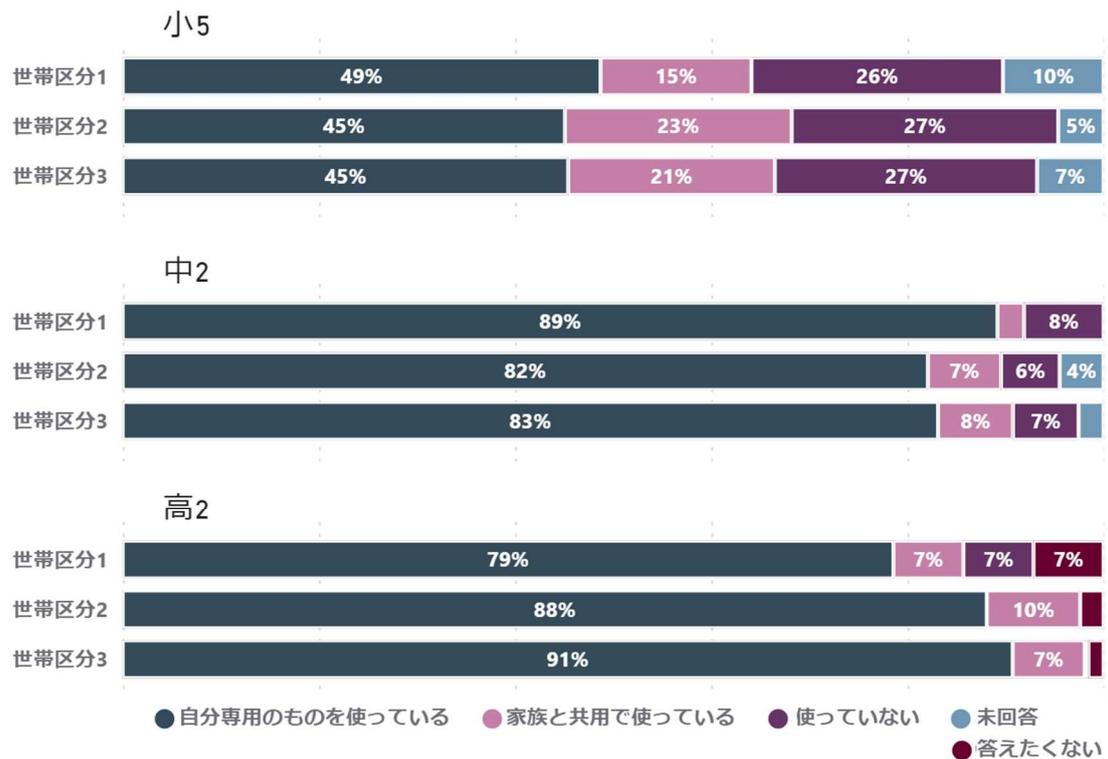
世帯区分によって割合の変化はあるが、規則性のある傾向は見られず、等価可処分所得と結婚の希望との相関関係は見受けられない。



学年	小学5年生				中学2年生				高校2年生			
	1	2	3	総計	1	2	3	総計	1	2	3	総計
結婚したいと思う	15	98	255	368	21	72	178	271	10	53	167	230
結婚したいと思わない	10	28	75	113	5	18	28	51	1	9	37	47
わからない	15	46	198	259	11	40	102	153	7	11	43	61
未解答	4	0	14	18	0	3	3	6	0	0	0	0
合計	44	172	542	758	37	133	311	481	18	73	247	338

◎スマートフォン等の利用状況（s Q 2 6、k Q 2 3）x 世帯区分

子どものスマートフォンや携帯電話の利用状況について、全体としては、各年代で世帯区分による割合の変化は小さく、等価可処分所得との相関関係は見受けられない。

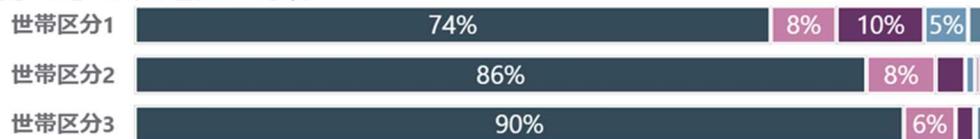


学年	小学5年生				中学2年生				高校2年生			
	1	2	3	総計	1	2	3	総計	1	2	3	総計
自分専用のものを使っている	22	78	247	347	33	109	261	403	14	65	225	304
家族と共用で使っている	7	39	113	159	1	10	23	34	2	8	19	29
使っていない	11	47	146	204	3	8	20	31	1	0	1	2
未回答	4	8	36	48	0	6	7	13	0	0	0	0
答えたくない	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	3
合計	44	172	542	758	37	133	311	481	18	73	247	338

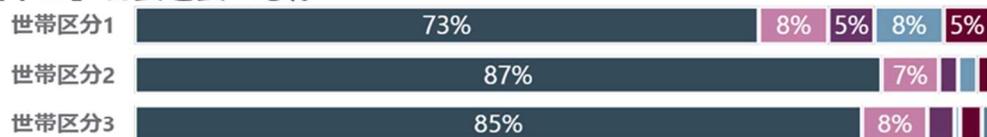
◎「週にどのくらい朝食を食べるか」(sQ14、kQ12) x 世帯区分

概ね顕著な差異が見られないが、「世帯区分1」については、小学5年生では「毎日、ほとんど毎日」が12～16ポイント低く、中学2年生では「毎日、ほとんど毎日」が12～14ポイント低くなっている。

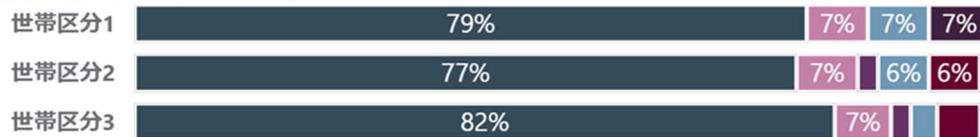
[小5] 朝食を食べるか



[中2] 朝食を食べるか



[高2] 朝食を食べるか



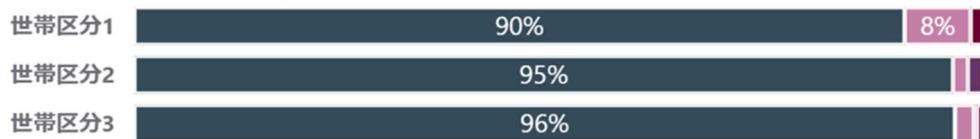
● 毎日またはほとんど毎日 ● 週に4～5回 ● 週に2～3回 ● 週に1回程度
● 食べない ● 未回答 ● 答えたくない

学年	小学5年生				中学2年生				高校2年生			
	世帯区分1	2	3	総計	1	2	3	総計	1	2	3	総計
毎日またはほとんど毎日	33	147	488	668	27	116	264	407	13	58	204	275
週に4～5回	4	14	32	50	3	9	24	36	1	4	15	20
週に2～3回	4	6	12	22	2	3	10	15	1	2	6	9
週に1回程度	2	2	1	5	3	3	2	8	2	5	8	15
食べない	0	1	0	1	2	2	8	12	0	4	12	16
未回答	1	2	9	12	0	0	3	3	0	0	0	0
答えたくない	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	3
合計	44	172	542	758	37	133	311	481	18	73	247	338

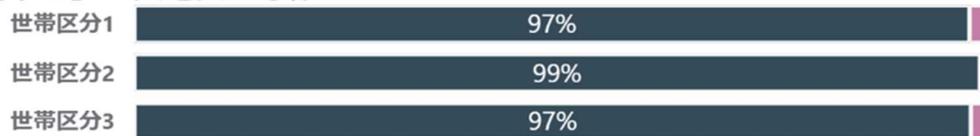
◎「週にどのくらい夕食を食べるか」(sQ16、kQ14) x 世帯区分

全体を通して顕著な差異が見られない。

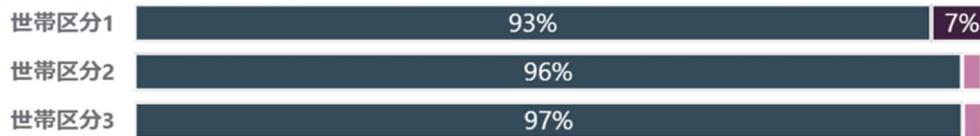
[小5] 夕食を食べるか



[中2] 夕食を食べるか



[高2] 夕食を食べるか

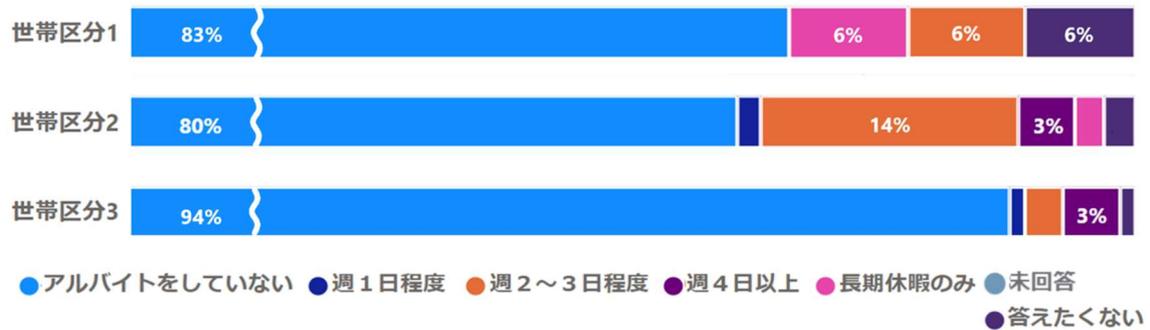


● 毎日またはほとんど毎日 ● 週に4～5回 ● 週に2～3回 ● 週に1回程度
 ● 食べない ● 未回答 ● 答えたくない

学年	小学5年生				中学2年生				高校2年生			
	1	2	3	総計	1	2	3	総計	1	2	3	総計
毎日またはほとんど毎日	39	164	518	721	36	131	303	470	17	71	239	327
週に4～5回	4	3	12	19	1	1	5	7	0	1	5	6
週に2～3回	0	3	2	5	0	0	0	0	0	0	1	1
週に1回程度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
食べない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
未回答	1	2	10	13	0	1	3	4	0	0	0	0
答えたくない	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	3
合計	44	172	542	758	37	133	311	481	18	73	247	338

◎ 「高校生のアルバイトの状況」(kQ9) × 世帯区分

アルバイトの有無において、「アルバイトをしていない」と回答した人は、「世帯区分1」は83%、「世帯区分2」は80%であるのに対し、「世帯区分3」は94%と高い。



世帯区分	世帯区分1	世帯区分2	世帯区分3	総計
アルバイトをしていない	15 (83.3%)	58 (79.5%)	231 (93.5%)	304
週1日程度(放課後,休日含む)	0 (0.0%)	1 (1.4%)	2 (0.8%)	3
週2～3日程度(放課後,休日含む)	1 (5.6%)	10 (13.7%)	4 (1.6%)	15
週4日以上(放課後,休日含む)	0 (0.0%)	2 (2.7%)	8 (3.2%)	10
長期休暇のみ	1 (5.6%)	1 (1.4%)	0 (0.0%)	2
答えたくない	1 (5.6%)	1 (1.4%)	2 (0.8%)	4
合計	18	73	247	338

3-3. その他のクロス集計・分析

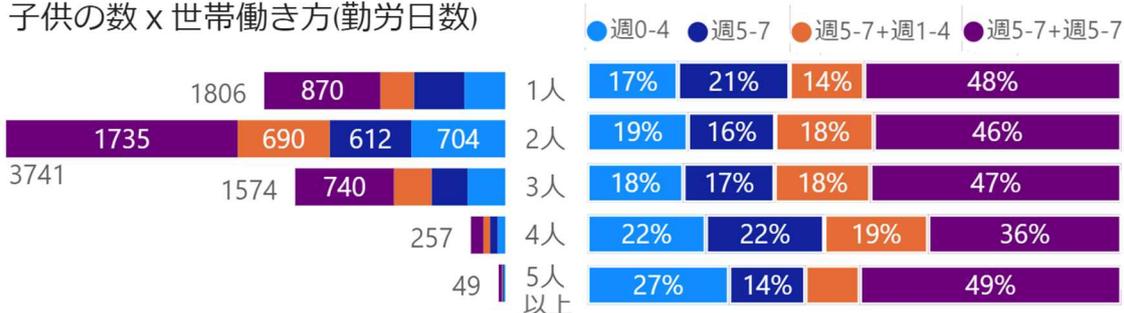
(1) 保護者の働き方と世帯状況について

ここでは、保護者の就労状況による世帯の属性をクロス集計を行い、世帯の就労状況について、クロス集計分析を行う。

◎保護者の勤労日数×子どもの数（hQ5、8、12）

両親ともに週5～7日働いている世帯が半数近くを占めている。子供の数が1～3人までは、勤労日数の各カテゴリーの構成割合が変わらず、保護者の勤労日数と子供の数に強い相関関係はないと考えられる。子供の数が「4人」「5人以上」では、その割合が崩れているが、サンプル数も少なく因果関係は不明である。

子供の数×世帯働き方(勤労日数)



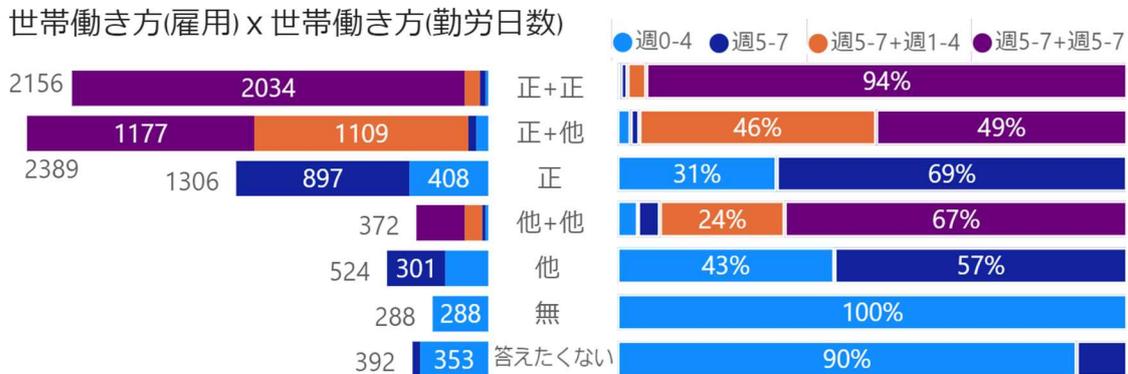
勤労日数	週0-4	週5-7	週5-7+週1-4	週5-7+週5-7	総計
1人	306	378	252	870	1806
2人	704	612	690	1735	3741
3人	283	269	282	740	1574
4人	57	57	50	93	257
5人以上	13	7	5	24	49
総計	1363	1323	1279	3462	7427

勤労日数の分類は以下の通り。調査票の設問で「5日」が60%以上を占め突出していることから、5日以上を「常勤」とイメージし、分類を行った。

- ・週5-7+週5-7：両方とも、週5日以上働いている共働き世帯
- ・週5-7+週1-4：一方が週5日以上、他方が週4日以下の共働き世帯
- ・週5-7：一方が週5日以上働き、他方は働いていない、あるいは、いない
- ・週0-4：上記以外の世帯

◎保護者の勤労日数 x 雇用形態 (hQ6、8、10、12)

両親ともに正規雇用の場合、ともに週5～7日働いている世帯が94%を占めており、正規雇用と非正規雇用の場合でも、約半数は、共に週5～7日働いている。



勤労日数	週0-4	週5-7	週5-7+週1-4	週5-7+週5-7	総計
正+正	14	29	79	2034	2156
正+他	62	41	1109	1177	2389
正	408	897	0	1	1306
他+他	15	16	91	250	372
他	223	301	0	0	524
無	288	0	0	0	288
答えたくない	353	39	0	0	392
総計	1363	1323	1279	3462	7427

- ・ 正+正：両方とも、正規雇用
- ・ 正+他：一方が正規雇用で、他方が非正規雇用 or 自営業、フリーランス or その他
- ・ 正：一方が正規雇用、他方は働いていない、あるいは、いない
- ・ 他+他：両方とも、非正規雇用 or 自営業、フリーランス or その他
- ・ 他：一方が非正規雇用 or 自営業、フリーランス or その他、他方は働いていない。あるいは、いない
- ・ 無：保護者は全て、働いていない
- ・ 答えたくない：一方、あるいは両方が「答えたくない」と回答している

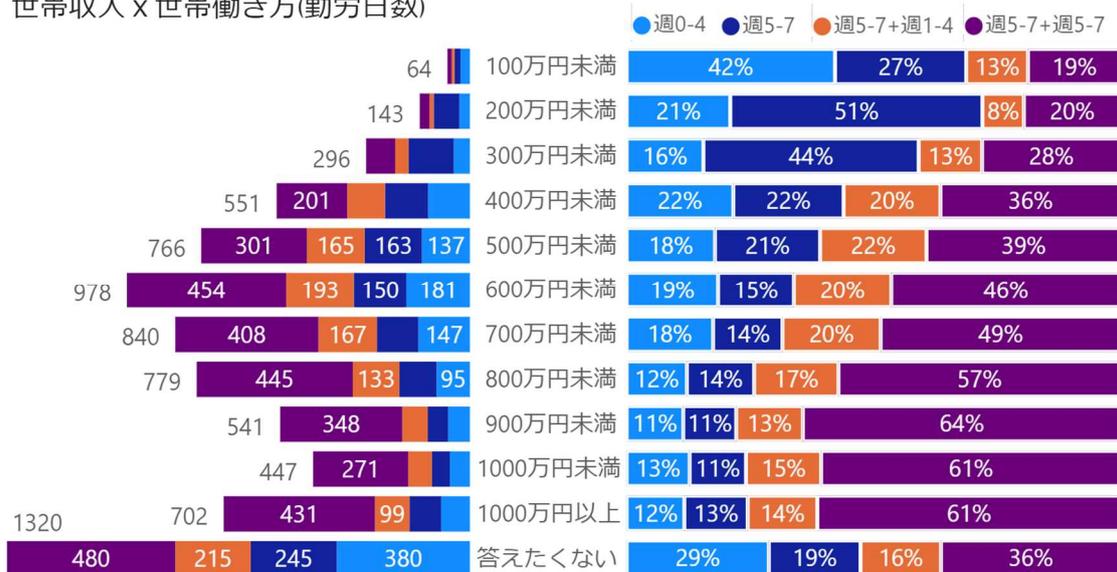
- ・ 週5-7+週5-7：両方とも、週5日以上働いている共働き世帯
- ・ 週5-7+週1-4：一方が週5日以上、他方が週4日以下の共働き世帯
- ・ 週5-7：一方が週5日以上働き、他方は働いていない、あるいは、いない
- ・ 週0-4：上記以外の世帯

◎保護者の勤労日数 x 世帯収入（hQ8、12）

世帯収入は、保護者の勤労日数との相関関係があることを示している。

特に「週 5-7+週 5-7（両方とも週 5 日以上働いている）」割合とは、比例に近い強い相関関係を持っている。

世帯収入 x 世帯働き方(勤労日数)



勤労日数	週0-4	週5-7	週5-7+週1-4	週5-7+週5-7	総計
100万円未満	27	17	8	12	64
200万円未満	30	73	12	28	143
300万円未満	46	129	38	83	296
400万円未満	119	123	108	201	551
500万円未満	137	163	165	301	766
600万円未満	181	150	193	454	978
700万円未満	147	118	167	408	840
800万円未満	95	106	133	445	779
900万円未満	62	58	73	348	541
1000万円未満	57	51	68	271	447
1000万円以上	82	90	99	431	702
答えたくない	380	245	215	480	1320
総計	1363	1323	1279	3462	7427

- ・ 週 5-7+週 5-7：両方とも、週 5 日以上働いている共働き世帯
- ・ 週 5-7+週 1-4：一方が週 5 日以上、他方が週 4 日以下の共働き世帯
- ・ 週 5-7：一方が週 5 日以上働き、他方は働いていない、あるいは、いない
- ・ 週 0-4：上記以外の世帯

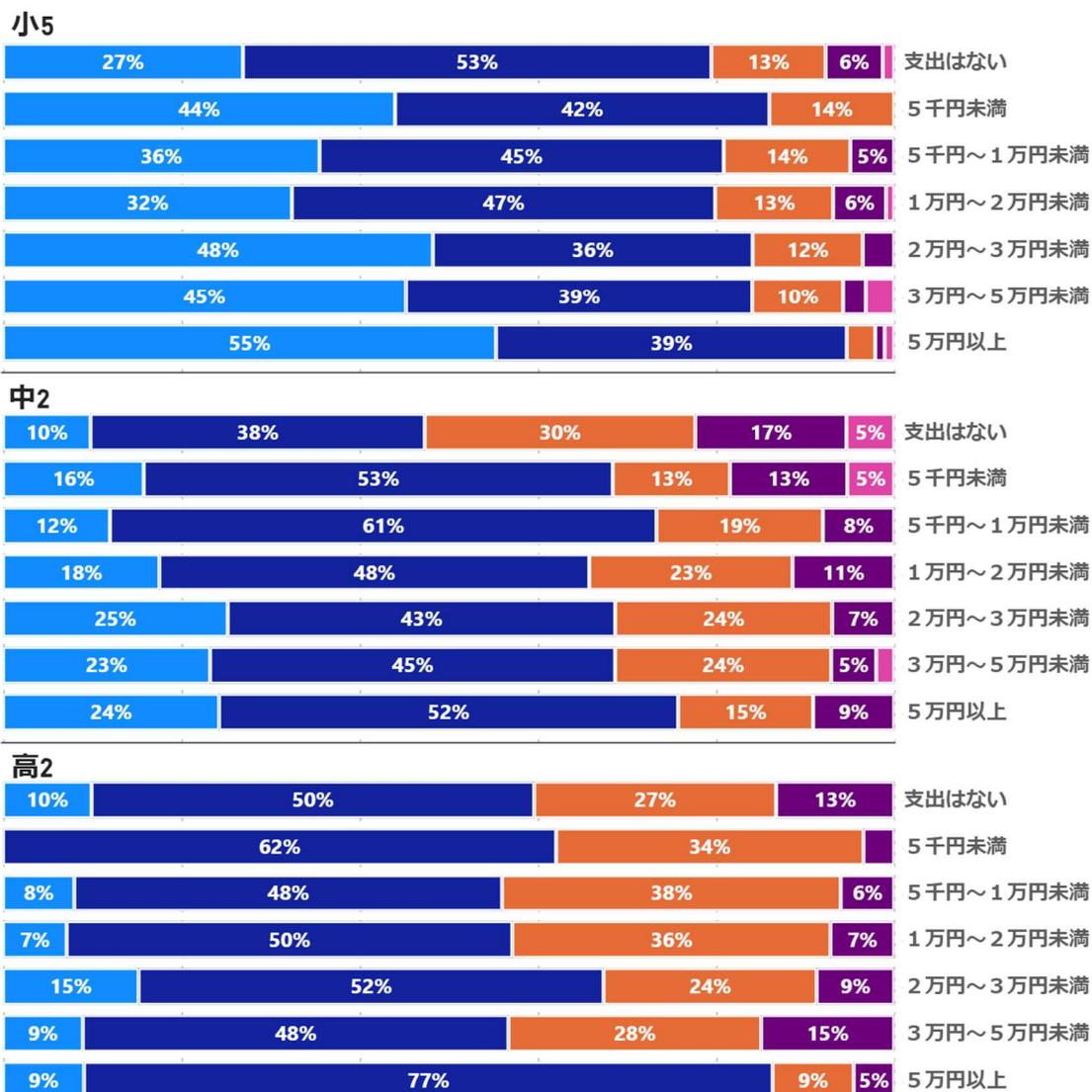
(2) 教育費と世帯状況について

ここでは、子ども教育費について、世帯状況や効果の側面を、クロス集計により分析している。

◎教育費 x 授業の理解度 (hQ27、sQ7、kQ5)

授業の理解度とのクロス集計により、教育費の効果をはかっている。小学5年生と中学2年生では、教育費と授業の理解度に、全体的に、緩やかな比例関係が見て取れる。また、「支出はない」と回答した世帯の子どもが「ほとんどわかる」と回答した人の割合は、全区分の中で最も低くなっている。

高校2年生では、教育費と授業の理解度に比例関係は見られず、「5万円以上」の区分のみ「だいたいわかる」と回答した人の割合が突出して多くなっている。

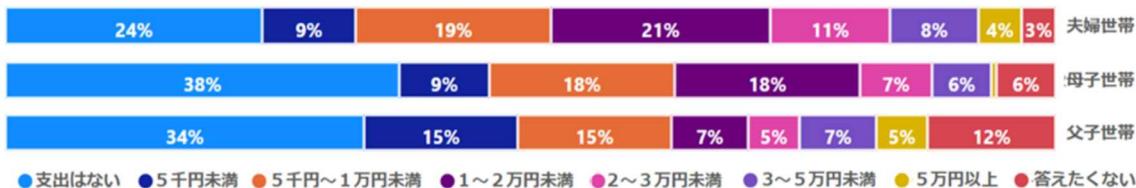


●ほとんどわかる ●だいたいわかる ●半分くらいわかる ●わからないことが多い ●ほとんどわからない

	ほとんど わかる	(割合)	だいたい わかる	(割合)	半分くらい わかる	(割合)	わからない ことが多い	(割合)	ほとんど わからない	(割合)	総計
小学5年生	384	(40.4%)	408	(42.9%)	112	(11.8%)	38	(4.0%)	9	(0.9%)	951
支出はない	21	(26.9%)	41	(52.6%)	10	(12.8%)	5	(6.4%)	1	(1.3%)	78
5千円未満	22	(44.0%)	21	(42.0%)	7	(14.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	50
5千円～1万円未満	65	(35.5%)	83	(45.4%)	26	(14.2%)	9	(4.9%)	0	(0.0%)	183
1万円～2万円未満	71	(32.4%)	104	(47.5%)	29	(13.2%)	13	(5.9%)	2	(0.9%)	219
2万円～3万円未満	82	(48.2%)	61	(35.9%)	21	(12.4%)	6	(3.5%)	0	(0.0%)	170
3万円～5万円未満	71	(45.2%)	61	(38.9%)	16	(10.2%)	4	(2.5%)	5	(3.2%)	157
5万円以上	52	(55.3%)	37	(39.4%)	3	(3.2%)	1	(1.1%)	1	(1.1%)	94
中学2年生	106	(18.1%)	275	(46.9%)	136	(23.2%)	59	(10.1%)	10	(1.7%)	586
支出はない	11	(9.8%)	42	(37.5%)	34	(30.4%)	19	(17.0%)	6	(5.4%)	112
5千円未満	6	(15.8%)	20	(52.6%)	5	(13.2%)	5	(13.2%)	2	(5.3%)	38
5千円～1万円未満	9	(12.0%)	46	(61.3%)	14	(18.7%)	6	(8.0%)	0	(0.0%)	75
1万円～2万円未満	20	(17.5%)	55	(48.2%)	26	(22.8%)	13	(11.4%)	0	(0.0%)	114
2万円～3万円未満	29	(25.2%)	50	(43.5%)	28	(24.3%)	8	(7.0%)	0	(0.0%)	115
3万円～5万円未満	23	(23.2%)	45	(45.5%)	24	(24.2%)	5	(5.1%)	2	(2.0%)	99
5万円以上	8	(24.2%)	17	(51.5%)	5	(15.2%)	3	(9.1%)	0	(0.0%)	33
高校2年生	38	(9.0%)	218	(51.8%)	122	(29.0%)	43	(10.2%)	0	(0.0%)	421
支出はない	15	(9.9%)	75	(49.7%)	41	(27.2%)	20	(13.2%)	0	(0.0%)	151
5千円未満	0	(0.0%)	18	(62.1%)	10	(34.5%)	1	(3.4%)	0	(0.0%)	29
5千円～1万円未満	4	(8.0%)	24	(48.0%)	19	(38.0%)	3	(6.0%)	0	(0.0%)	50
1万円～2万円未満	4	(7.1%)	28	(50.0%)	20	(35.7%)	4	(7.1%)	0	(0.0%)	56
2万円～3万円未満	7	(15.2%)	24	(52.2%)	11	(23.9%)	4	(8.7%)	0	(0.0%)	46
3万円～5万円未満	6	(9.0%)	32	(47.8%)	19	(28.4%)	10	(14.9%)	0	(0.0%)	67
5万円以上	2	(9.1%)	17	(77.3%)	2	(9.1%)	1	(4.5%)	0	(0.0%)	22
総計	528	(27.0%)	901	(46.0%)	370	(18.9%)	140	(7.2%)	19	(1.0%)	1958

◎教育費 x 保護者世帯構成 (hQ4、27)

保護者世帯構成で教育費を比較すると、夫婦世帯に比べ母子世帯は、教育費が小さくなる傾向がある。「支出はない」の割合が顕著に大きくなり、「5万円以上」の割合が顕著に低くなるものの、他のカテゴリーでは夫婦世帯に近い割合となっている。父子世帯はサンプル数が少ないが、傾向としては、夫婦世帯と母子世帯の中間に位置する構成となっている。



	夫婦世帯	父子世帯	母子世帯	総計	割合
支出はない	1677	14	153	1844	25.2%
5千円未満	611	6	35	652	8.9%
5千円～1万円未満	1277	6	72	1355	18.5%
1万円～2万円未満	1433	3	72	1508	20.6%
2万円～3万円未満	782	2	28	812	11.1%
3万円～5万円未満	578	3	23	604	8.3%
5万円以上	282	2	2	286	3.9%
答えたくない	222	5	23	250	3.4%
総計	6862	41	408	7311	100.0%
割合	93.9%	0.6%	5.6%	100.0%	

(3) 多胎児等世帯の状況について

ここでは、多胎児等を持つ保護者を抽出し、集計結果を示す。アンケートの設問h Q 3において、複数の子どもが同じ年齢である保護者を抽出して「多胎児等世帯」としており、多胎児以外の世帯も含まれている可能性がある。

多胎児等世帯として「132」のサンプルが抽出された。保護者全体のサンプル数「7427」の約1.8%であり、日本における多胎児の出生率（約1%：一般社団法人日本多胎児支援協会）よりも多い割合となっている。

重複数	世帯区分1	世帯区分2	世帯区分3	世帯区分不明	合計
2人	11	38	61	19	129
3人	0	0	1	0	1
4人	0	1	0	1	2
合計	11	39	62	20	132
割合	8%	30%	47%	15%	100%

◎多胎児等世帯の世帯区分

多胎児等世帯の世帯区分の構成は、全世帯の構成と比べて、「世帯区分2」では10ポイント大きく、「世帯区分3」では10ポイント少ない。

[多胎児等世帯の世帯区分]



[保護者全体の世帯区分]

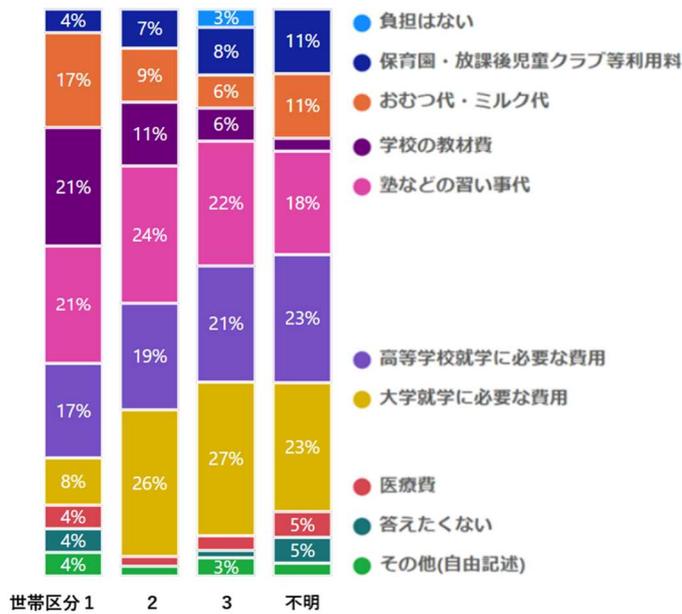


◎多胎児等世帯の子育て負担（h Q 3 5・複数回答）

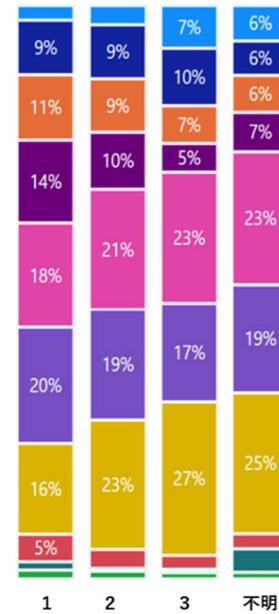
全世帯の世帯区分の構成と比べて、金銭面・育児面の両方において「負担はない」の割合が小さくなっている。「負担」それぞれの項目の割合は、「世帯区分2」「世帯区分3」では、概ね同じ構成となっている。「世帯区分1」「世帯区分不明」では顕著な差異も見られるが、これらのカテゴリーは回答数が少ないことに留意する必要がある。

○金銭面

[多胎児等世帯]

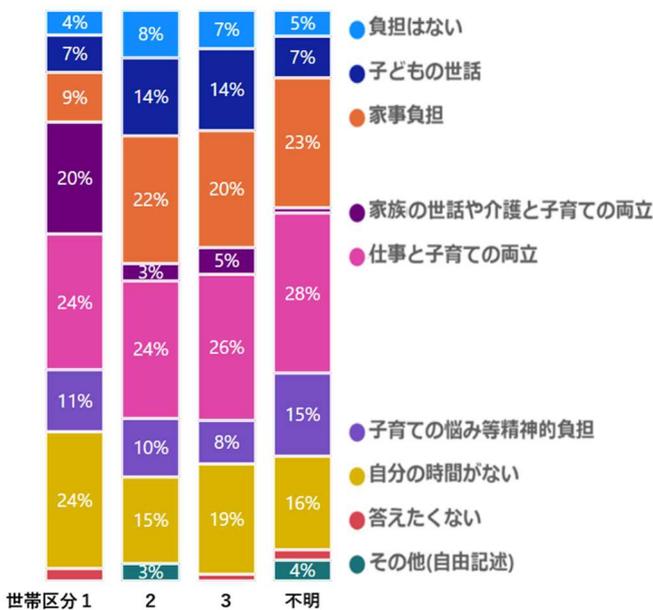


[全世帯]

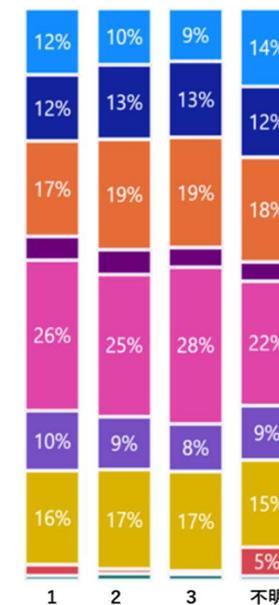


○育児面

[多胎児等世帯]



[全世帯]



§ 4 総括

今回の調査では、こどもや若者、子育てに関する幅広い当事者約 13,000 人から回答を得、生活実態や支援ニーズ等について多様な意見の抽出を行った。また、世帯区分や親子の紐付け調査、その他様々なクロス集計により多角的な分析を行っている。

結果としては、こどもや若者の生活実態や、こどもや若者、子育て当事者が求める少子化対策、子育て支援策についての回答を得ることができた。

資料編

調査票単純集計